

KOMATSU

WebLight Pro
ウェブライト



ウェブライトプロ
イントラネット情報端末「WebLightPro」
KDT412SCAEG-3
ソフトウェアマニュアル シンククライアント編

このたびは、イントラネット情報端末「WebLightPro」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、本装置の機能、取り扱い方法などを十分ご理解の上、正しくご使用くださるようお願い致します。

また、ご不明な点につきましては、販売代理店または弊社営業部、サポートセンタまでご連絡ください。

はじめに

本書は、「コマツ」イントラネット情報端末 WebLightPro のソフトウェアマニュアル(シンクライアント編)です。本装置をご使用になる前には必ず本書に記載された正しい手順でお使い下さい。なお、本装置のハードウェアの詳細につきましては、別冊のハードウェアマニュアルをご参照下さい。

【お願い】


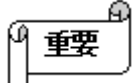
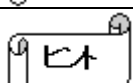
- 本ソフトウェアマニュアルは、必要に応じていつでも読めるように大切に保管ください。
- 本書の内容および本装置の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、お手数ですが弊社営業またはサポートセンタ窓口までご連絡ください。
- 本書の適用の結果生じた間接障害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容の一部または全ての無断転載、無断複写は禁止されております。
本装置は外国為替および外国貿易管理法の規定により、日本国外に輸出する場合には日本国政府の許可が必要です。

【保証について】

- 本書の注意書きに基づく正常な使用状態のもとで、保証期間内に万一故障し弊社がそれを認めた場合、無償にて故障個所の修理または交換を致します。
- 本製品の故障またはその使用により誘発される二次的な災害については、弊社はその責任を負わないものとします。
- イントラネット情報端末「WebLightPro」を正しく安全にご使用いただくため、下記の安全注意事項を必ずお守りください。これらの注意事項に反した取り扱いにより生じた損害について、当社は責任と保証を致しかねます。

【表記記号について】

本書では、本装置のソフトウェアを正しくご使用頂く為に、以下のような表記記号を使用しています。

	取り扱いを誤った場合に、本装置を含む物的損害の発生が想定される場合の注意事項です。
	装置の使用上の詳しい説明や、具体的手順についての解説及び注意事項です。
	知っておくと有益な情報についての解説及び注意事項です。

株式会社小松製作所 使用許諾契約書

重要 以下のライセンス契約書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書は、本システムに含まれるソフトウェアに関してお客様（個人または法人のいずれであるかを問いません）と株式会社小松製作所との間に締結される法的な契約書です。

本ソフトウェアは、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は、本使用許諾契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本使用許諾契約書の条項に同意されない場合、お客様は、本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

1. 本ソフトウェアライセンス

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。

本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

第1条 ライセンスの許諾 本契約書はお客様に対し、以下の非独占的かつ制限のある権利を許諾します。

A. バイナリコード

本ソフトウェアを含むバイナリコードは本ソフトウェアと対であるハードウェア上でのみにインストールや使用を許諾します。

B. 再頒布の禁止

本ソフトウェアを含むバイナリコードを第三者に配布することを禁止します。

C. その他の権利

本契約書に特に規定されていない権利はすべて株式会社小松製作所によって留保されます。

2. 著作権

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、株式会社小松製作所が有するものです。本ソフトウェアを使ってアクセスできるコンテンツについての権限および無体財産権はコンテンツの所有者の所有物で、適用される著作権法および著作権に関する条約の規定によって保護されています。本契約書は、お客様にかかるコンテンツの使用権を許諾するものではありません。本契約書にとくに規定されていない権利はすべて株式会社小松製作所によって留保されます。したがって、お客様は本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。ただし、本ソフトウェアのバックアップとして、コピーを作成することはできます。ただし、これを本ソフトウェアと対となるハードウェアに復元する以外の目的で使用することはできません。お客様は、本ソフトウェア付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。

3. そのほかの権利と制限

A. リバース エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

B. サポート

株式会社小松製作所は本ソフトウェアを用いたお客様の「Windows CE 用アプリケーション」開発について原則としてサポートを提供していません。

C. レンタル

お客様は本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

D. ソフトウェアの譲渡

本契約に基づいたお客様の権利を譲渡することはできません。

E. 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、株式会社小松製作所は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアの複製物およびその構成部分をすべて破棄しなければなりません。

その他本契約は、日本国法に準拠するものとします。

I. 保証

本ソフトウェアを変更なしに対となるハードウェアで使用した場合のみ動作を保証します。

本ソフトウェアにお客様の「Windows CE 用アプリケーション」を追加した場合の動作の保証はできません。

また、変更あるなしにかかわらずお客様による本ソフトウェアのいかなる使用についても、そのリスクはお客様が負うもので、株式会社小松製作所は責任を負うものではありません。

5. 責任の制限

株式会社小松製作所は、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じる一切の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません)に関して一切責任を負いません。

たとえ、株式会社小松製作所がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

本マニュアルで使用されているアプリケーション名の正式名称

本マニュアルでの表記	正式名称
Windows2000 Server	Microsoft®Windows® 2000 Server
WindowsNT Server 4.0 TSE	Microsoft®Windows®NT Server 4.0 Terminal Server Edition
WindowsCE	Microsoft®Windows®CE Version 3.0
ICA	Citrix® Independent Computing Architecture
RDP	Microsoft®Remote Desktop Protocol

Microsoftとそのロゴ、Microsoft®Windows® 2000 Server、Microsoft®Windows®NT Server 4.0 Terminal Server Edition、Microsoft®Windows®CEは米国マイクロソフト社の登録商標です。

Citrix、Independent Computing Architecture(ICA)、および MetaFrame は米国 Citrix System, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ORiNOCO,WLLUC461 は AGEAR SYSTEMS INC. の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

また、CitrixサーバーはCitrix® MetaFrameを搭載したWindows2000 ServerまたはWindowsNT Server 4.0 TSEの略称です。

目次

はじめに	i
株式会社小松製作所 使用許諾契約書	ii
本マニュアルで使用されているアプリケーション名の正式名称	iii

1 準備.....1

1-1 電源の投入.....	1
----------------	---

1-2 シンククライアント設定	2
-----------------------	---

2 接続環境の設定.....4

2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合	4
--------------------------------	---

2-2 無線 LAN 接続の場合	6
------------------------	---

2-2-1 KOMATSU Wireless LAN Card KC-11B20Z1 の設定	6
--	---

2-2-2 ORiNOCO Wireless Ethernet Driver の設定	9
--	---

2-3 ダイアルアップ接続の場合	11
------------------------	----

3 RDP クライアントの設定.....16

3-1 RDP 接続エントリを作成する	16
---------------------------	----

3-2 RDP 接続エントリを変更する	17
---------------------------	----

3-3 RDP 接続エントリを削除する	18
---------------------------	----

3-4 RDP 接続エントリを自動起動に設定する	18
--------------------------------	----

3-5 RDP 接続エントリをダイアルアップで使用する	19
-----------------------------------	----

3-6 RDP クライアントの接続	19
-------------------------	----

3-7 RDP クライアントの切断	21
-------------------------	----

3-8 RDP 接続時のローカルプリンタの使用	21
-------------------------------	----

4 ICA クライアントの設定	25
<hr/>	
4-1 ICA クライアントをインストールする.....	25
4-2 ICA 接続エントリを作成する	27
4-3 ICA 接続エントリを変更する	29
4-4 ICA 接続エントリを削除する	29
4-5 ICA 接続エントリを自動起動に設定する	30
4-6 ICA 接続エントリをダイヤルアップで使用する.....	30
4-7 ICA クライアントの接続	30
4-8 ICA クライアントの切断	32
4-9 ICA 詳細設定.....	32
4-10 ICA 接続時のローカルプリンタの使用	35
<hr/>	
5 コントロールパネルの設定	38
<hr/>	
5-1 コントロールパネルの起動	38
5-2 WebLight 設定.....	38
5-3 無線 LAN 設定 / Wireless Network.....	42
5-4 キーボード	42
5-5 システム	42
5-6 スタイラス	43
5-7 ダイヤル.....	44
5-8 ネットワーク	44
5-9 パスワード.....	45
5-10 ボリューム&サウンド.....	46
5-11 マウス	46
5-12 画面.....	47
5-13 地域.....	49

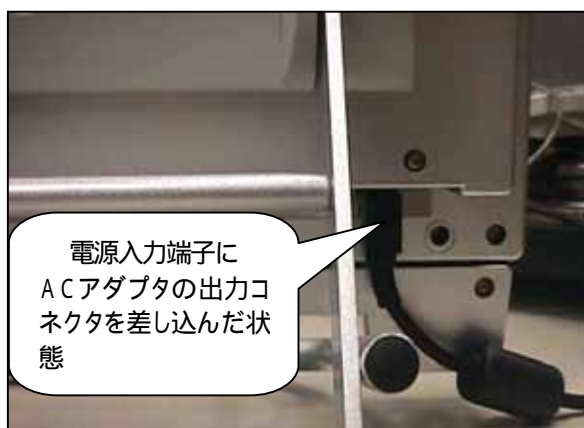
5-14 通信.....	50
5-15 日付 / 時刻.....	50
5-16 設定の保存.....	52
<hr/>	
6 便利な機能.....	53
<hr/>	
6-1 設定変更ガード機能.....	53
6-2 ソフトウェアキーボード.....	56
6-3 クライアントドライブの Storage Card 使用.....	57
6-4 タスクの実行.....	58
6-5 ネットワーク確認コマンド.....	59
<hr/>	
7 トラブルシューティング.....	60
<hr/>	

1 準備

本章では、はじめて本装置を使用する場合の電源投入の仕方について説明します。

1-1 電源の投入

1. 本装置には専用のACアダプタと電源ケーブルが付属しております。ACアダプタの出力コネクタを本装置の下側面の電源入力端子に接続します。次に本体背面左下にある電源スイッチを上にして WebLightPro の電源を ON にします。



(本体背面右下)

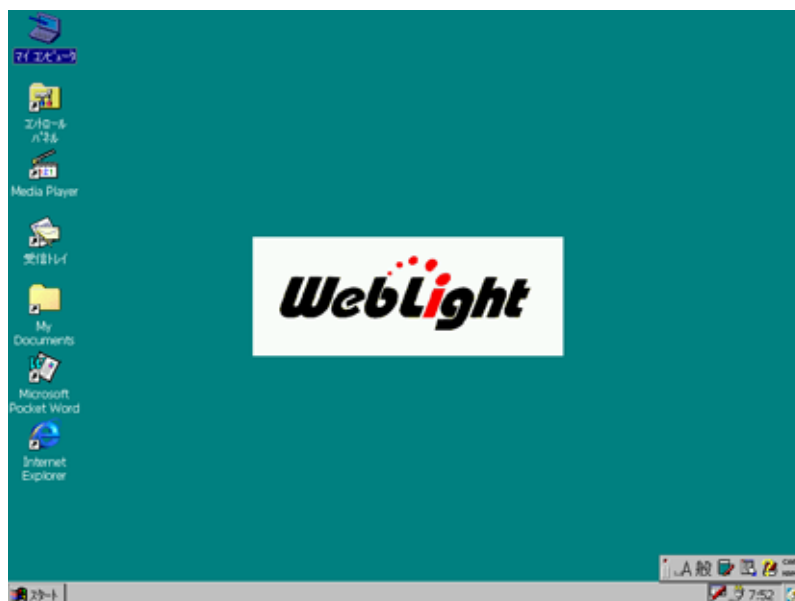


(本体背面左下)

2. LEDランプ点灯後、タッチスクリーンの補正画面が表示されます。画面上の+印を順にタッチしてください。



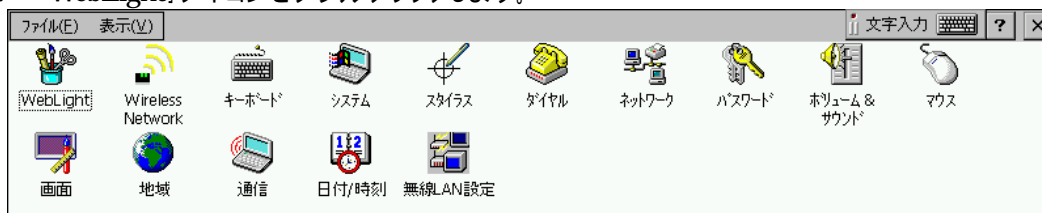
3. タッチスクリーンの補正が終了すると、以下のようなデスクトップ画面がディスプレイに表示されます。



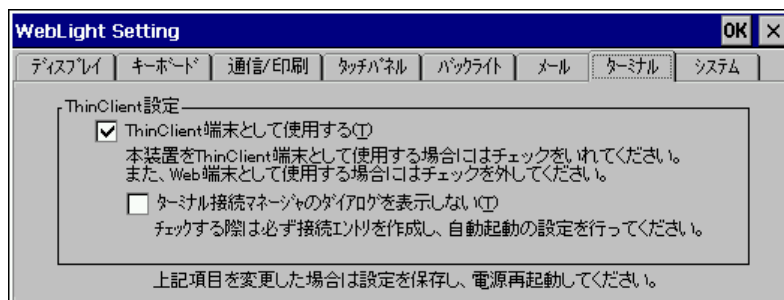
1-2 シンククライアント設定

1. デスクトップ画面上の  アイコンをダブルクリックし、コントロールパネルを起動します。

2. 「WebLight」アイコンをダブルクリックします。



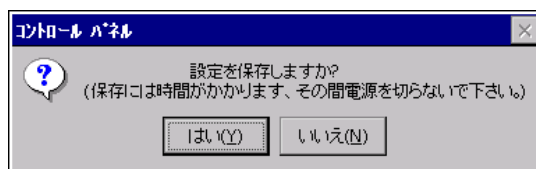
3. 表示された「WebLight Setting」ダイアログで、シンククライアントの設定を行います。「ターミナル」タブを選択し、「ThinClient 端末として使用する」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



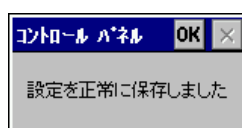
4. 以上、設定がおわりましたら設定を保存します。コントロールパネルウィンドウ右上の「×」ボタンをクリックします。





5. 表示されたダイアログで「はい」をクリックします。

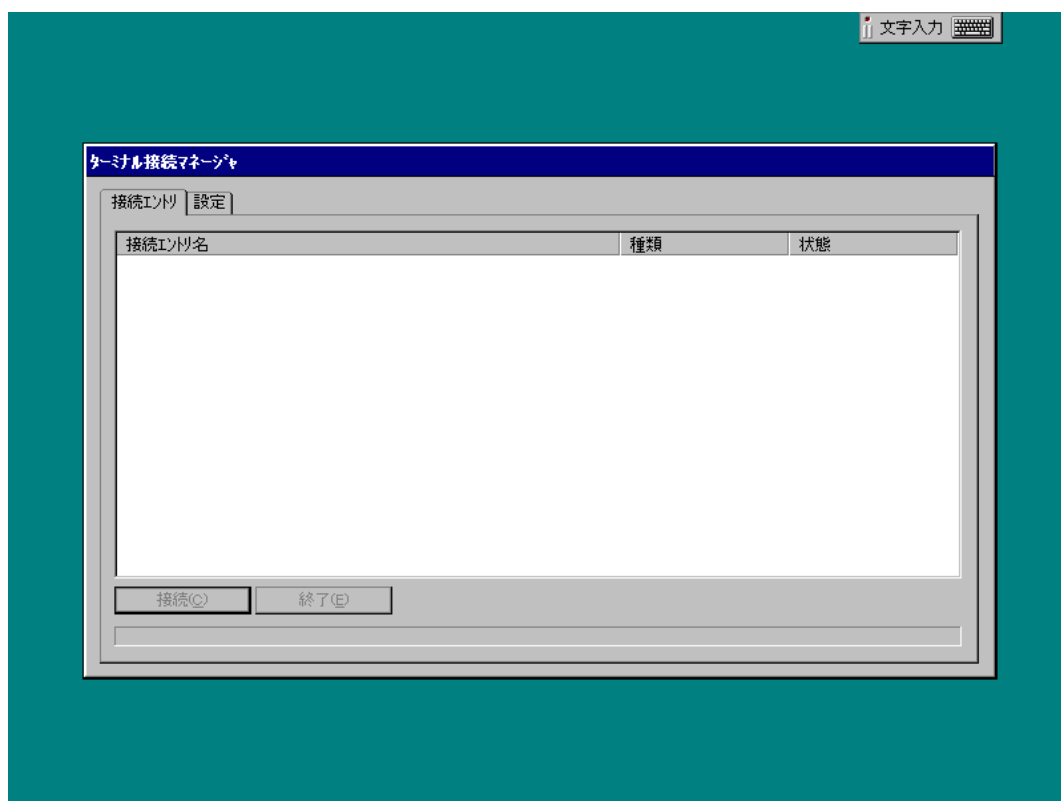


6. “正常に保存されました”というメッセージが現れます。そこで「OK」をクリックします。



7. ダイアログが閉じたら、1 度本装置の電源を切り再度電源を入れなおしてください。起動後に以下のように「ターミナル接続マネージャ」と「ソフトウェアキーボード呼び出しアイコン」

  が表示されたら設定は終了です。



ターミナル接続マネージャでは、ICA/RDP 接続エントリの設定を行います。
ソフトウェアキーボード呼び出しアイコンをクリックするとソフトウェアキーボードが表示されます。

2 接続環境の設定

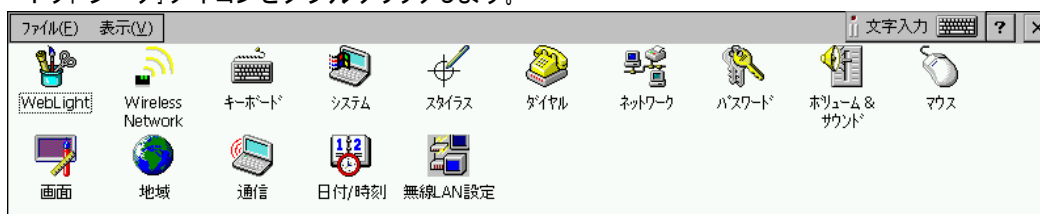
本装置をネットワークに接続するために必要な設定の手順を説明します。

2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合

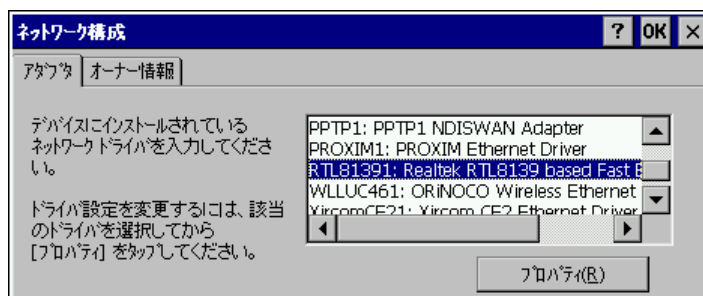
1. ターミナル接続マネージャの「設定」タブを選択し、「コントロールパネル」ボタンをクリックします。



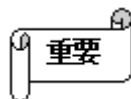
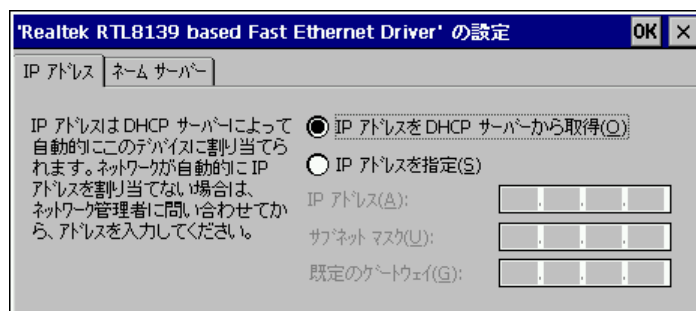
2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



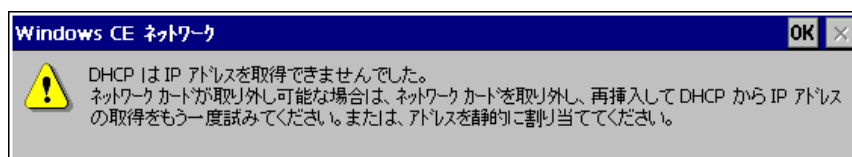
3. 「ネットワーク構成」ダイアログが表示されます。本装置内蔵の有線 LAN を使用する場合には「RTL81391: Realtek RTL8139 based Fast Ethernet Driver」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



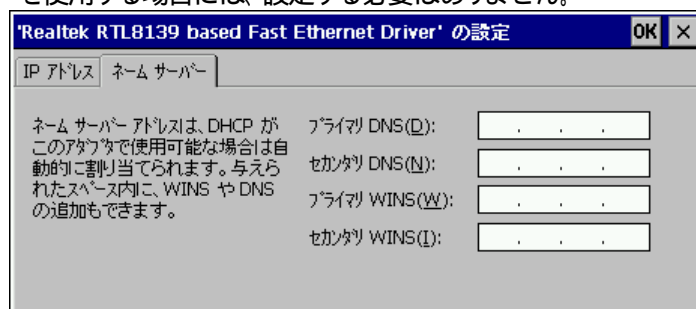
4. 「IP アドレス」で使用する IP アドレスを設定します。
DHCP サーバーから IP アドレスを取得することもできます。

**重要**

「IPアドレスをDHCPサーバーから取得」を選択した場合で、DHCPサーバーが起動していないなどの理由でIPアドレスを取得できない場合には以下のメッセージが表示されます。



5. 「ネームサーバー」でネームサーバーアドレスを設定し、OK をクリックします。
DHCP サーバーを使用する場合には、設定する必要はありません。



6. 「アダプタ」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

7. 「ネットワーク構成」ダイアログの「OK」ボタンをクリックします。



8. WebLight アイコンをダブルクリックします。



9. 「通信/印刷」タブの「LAN 接続」を「本体の LAN を有効にする」に設定し、「OK」ボタンをクリックします。



10. コントロールパネルを終了し、設定を保存してください。本装置の電源を再起動すると、設定した IP アドレスで起動します。

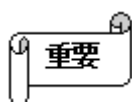
2-2 無線 LAN 接続の場合

本装置には2種類の無線 LAN ドライバと設定用ユーティリティが搭載されています。
使用できる無線 LAN カードとドライバ・アイコンの組み合わせは以下の通りです。

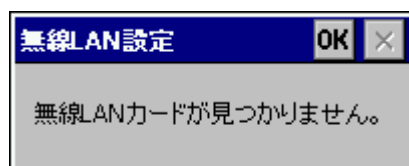
ユーティリティ アイコン	ドライバ名	メーカー機種・ブランド	型番
 無線LAN設定	Komatsu1: KOMATSU Wireless LAN Card KC-11B20Z1	コマツトライリンク	KC-11B20Z1
		PLANEX	GW-NS110PX
		ELECOM	LD-WL11/PCC
 Wireless Network	WLLUC461: ORiNOCO Wireless Ethernet Driver	ORiNOCO	PC24E-H-JP
		バッファロー	WLI-PCM-L11
			WLI-PCM-L11G

2-2-1 KOMATSU Wireless LAN Card KC-11B20Z1 の設定

1. 使用する無線 LAN カードを挿入します。
2. ターミナル接続マネージャの「設定」タブを選択して、「コントロールパネル」ボタンをクリックし、「無線 LAN 設定」アイコンをダブルクリックします。



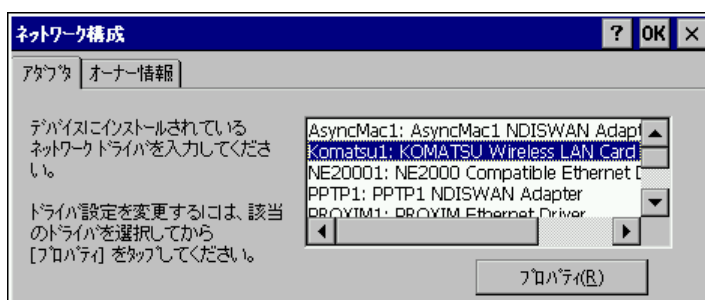
無線 LAN カードを接続しないと設定は行えません。
接続されていない場合、以下のようなエラーが表示されます。



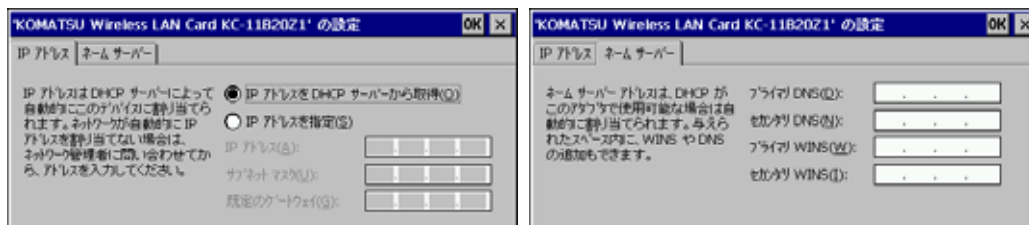
3. 「設定」タブを選択し、ESSID を設定します。
接続するアクセスポイントを指定しない場合は「自動検出」を選択します。
特定のアクセスポイントに接続する場合は「手動設定」を選択し、アクセスポイントの ESSID を入力します。設定後に「変更」ボタンをクリックしてください。
「通信モード」、「省電力」、「通信速度」はデフォルトのままご使用ください。



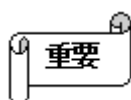
4. 「OK ボタン」をクリックし、「無線 LAN 設定」ダイアログを閉じます。
5. 次に「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「Komatsu1:Komatsu Wireless LAN Card KC-11B20Z1」を選択します。



6. 「2-1 イーサネット(本体のLAN)接続の場合」と同様に「IP アドレス」と「ネームサーバー」を設定します。



7. ネットワーク環境の設定が終了したら、最後に「WebLight」アイコンをダブルクリックし、「WebLightSetting」-「通信/印刷」-「LAN 接続」で「本体の LAN を無効にする」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



この際必ず設定を保存してください。設定を保存しないまま、電源を再投入すると設定が反映されません。

- 無線受信状態の確認

「無線 LAN 設定」の「情報」で無線の受信状態が確認できます。



無線LAN設定 (情報タブ)

KC-11B20Z1 情報

アダプタ: KOMATSU Wireless LAN Card KC-11B20Z1 無線規格: ARIB

ファームウェア: 1.3.4 通信速度: 11Mbps

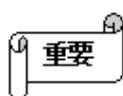
チャンネル: 13 MACアドレス: 00:C0:6F:05:C1:0F

ESS ID: route129

接続先AP: 00:02:2D:21:20:4F

通信品質: [Progress Bar] Excellent (90%)

電波強度: [Progress Bar] Good (80%)



WEP 設定をしている場合、WEP が間違っても通信状態を示すバーは良好と表示されますのでご注意ください。

- ネットワーク接続の確認

「無線 LAN 設定」の「テスト」で PING 確認を行うことができます。



無線LAN設定 (テストタブ)

Ping 送信

送信先IP: [Text Box]

タイムアウト: 1000 データ長: 0032

テスト結果

送信元IP: [Text Box] 送信: [Text Box]

経過時間: [Text Box] 受信: [Text Box]

Link Messages

[Text Area]

開始 [Button]

終了 [Button]

- 暗号化通信の使用

「無線 LAN 設定」の「WEP 設定」で暗号を設定することができます。



無線LAN設定 (WEP設定タブ)

WEP

☐ 無効 ☒ 有効

暗号鍵長

☒ 40-bit ☐ 128-bit

キータイプ:

Char [Dropdown]

確認方式:

Open System [Dropdown]

キー設定

☒ Key 1 1A2B3

☐ Key 2 *****

☐ Key 3 *****

☐ Key 4 *****

更新 [Button] 戻す [Button]



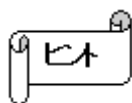
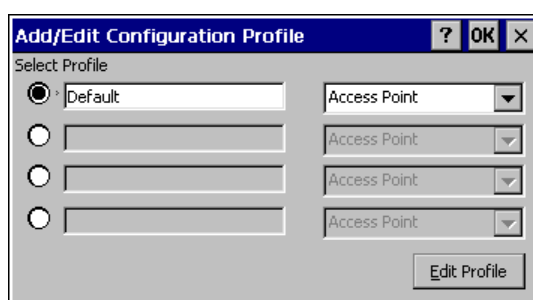
40WEP で暗号化通信を行う場合、上記設定を参考にご使用ください。

2-2-2 ORiNOCO Wireless Ethernet Driver の設定

1. 使用する無線 LAN カードを挿入します。
2. ターミナル接続マネージャの「設定」タブを選択して、「コントロールパネル」ボタンをクリックし、「Wireless Network」アイコンをダブルクリックします。

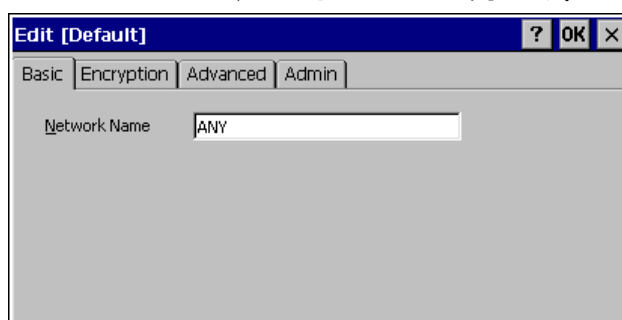


3. 「Select Profile」で現在選択されている部分が「Access Point」になっていることを確認して、「Edit Profile」ボタンをクリックしてください。

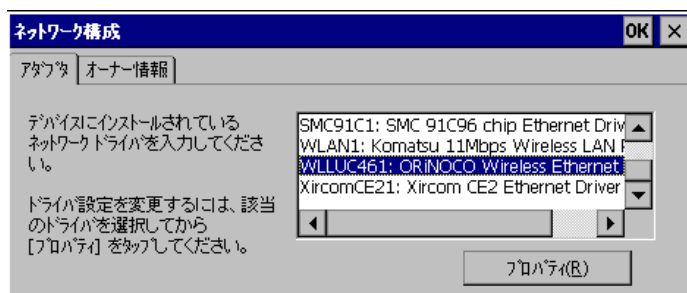


新たな設定を作成したい場合は、ネットワーク接続プロファイル名を入力します。そして使用するプロファイルにチェックを入れた後、「Edit Profile」を選択します。

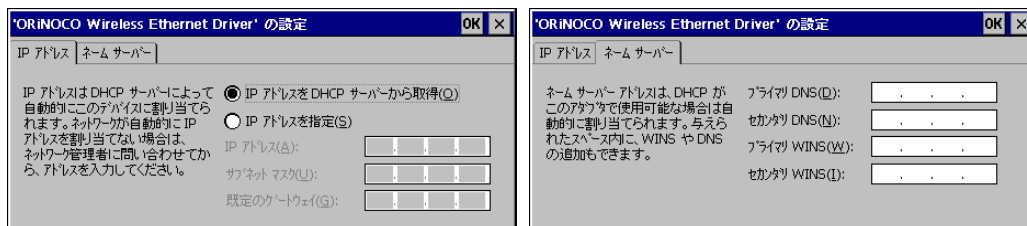
4. 「Basic」タブの「Network Name」に、接続するアクセスポイントのプロファイル名を入力します。（特定のアクセスポイントを指定しない場合には「ANY」とします。）
その他の詳細な設定に関しては、無線 LAN カードのマニュアルをご覧ください。
設定が終了したら OK ボタンをクリックし、「Edit」ダイアログを閉じます。



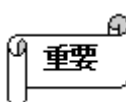
5. OK ボタンをクリックし「Add/Edit Configuration Profile」ダイアログを閉じます。
6. 次に「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「WLLUC461:ORiNOCO Wireless Ethernet Driver」を選択します。



7. 「2-1 イーサネット(本体のLAN)接続の場合」と同様に「IPアドレス」と「ネームサーバー」を設定します。



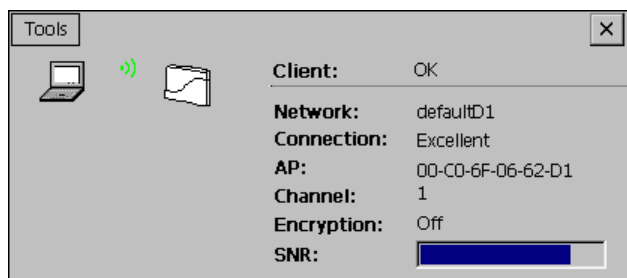
8. ネットワーク環境の設定が終了したら、最後に「WebLight」アイコンをダブルクリックし、「WebLightSetting」-「通信/印刷」タブの「LAN 接続」で「本体の LAN を無効にする」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



この際必ず設定を保存してください。設定を保存しないまま、電源を再投入すると設定が反映されません。

- 無線受信状態の確認

すばやく無線 LAN カードの着脱を行うと、無線受信状態を確認するウィンドウが表示されます。

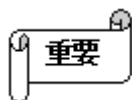


2-3 ダイアルアップ接続の場合

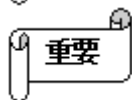
ダイアルアップ接続前に

本装置でダイアルアップ接続するにはモデム(カード、外付け)か、PHSカードが必要です。また、接続には以下の情報を予め用意しておいてください。

- ◆ プロバイダのアクセスポイント電話番号
- ◆ ユーザーID、パスワード、(ドメイン名)
- ◆ DNS サーバーアドレス(ネームサーバーアドレス)

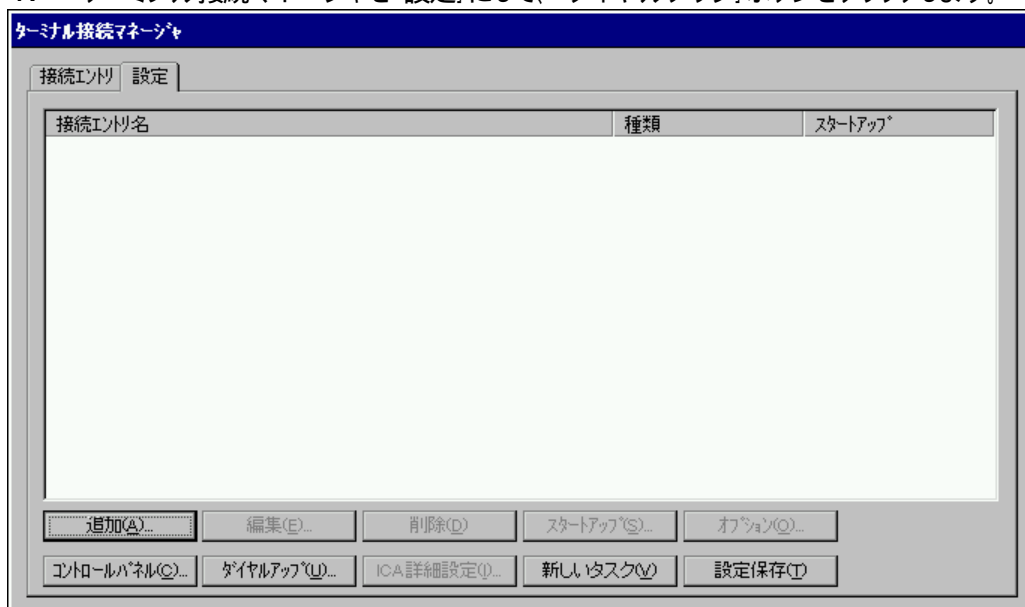


外付けモデムを使用する場合、シリアルポートは RS232C-A を使用してください。RS232C-B ではモデムを使用できません。



モデム接続を使用している場合は、接続を切るにはリモートネットワークを切断する必要があります。パネルの電源を切っただけでは切断されません。

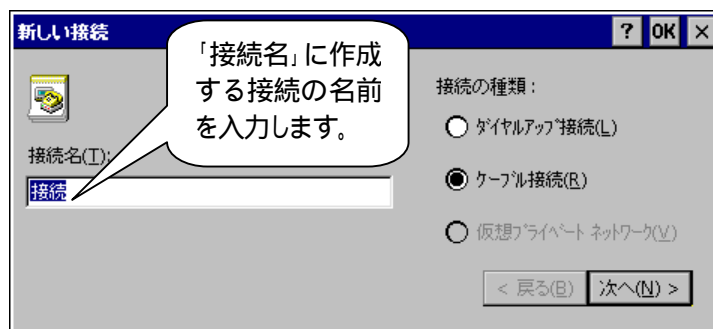
1. ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「ダイアルアップ」ボタンをクリックします。



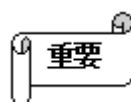
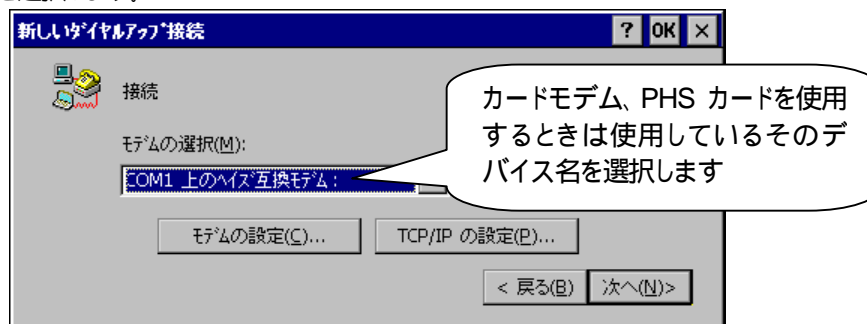
2. ウィンドウ内の「新しい接続」アイコンをダブルクリックします。



3. 「新しい接続」ダイアログが表示されます。ここで、「接続名」に新しく作成する接続の名前を入力し、「接続の種類」を「ダイアルアップ接続」に設定します。設定が終わったら、「次へ」ボタンをクリックします。



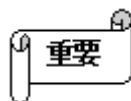
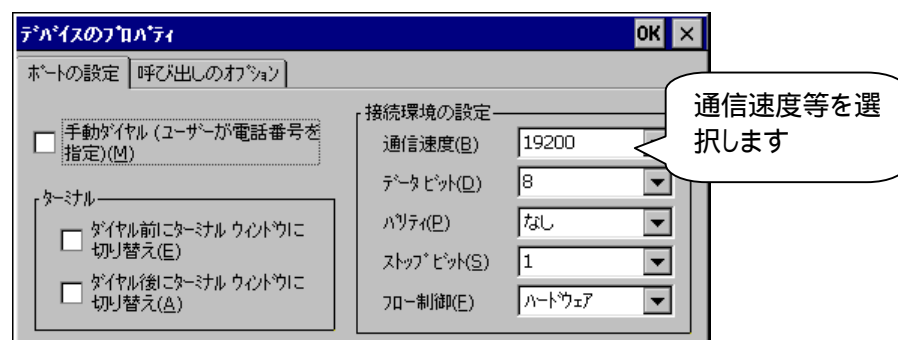
4. 「新しいダイヤルアップ接続」ダイアログが表示されます。「モデムの選択」でご利用のモデム、PHSカードなどを選択します。



シリアルポートでモデム、TA(ターミナルアダプタ)などヘイズ互換モデムを使用する場合、「COM1 上のヘイズ互換モデム」を選択してください。

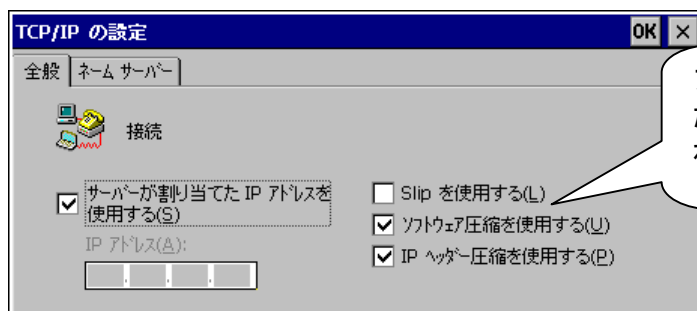
PHS カードなどを使用する場合は、そのデバイス名を選択します。

5. 「モデムの設定」ボタンをクリックし、「デバイスのプロパティ」ダイアログで通信速度等を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



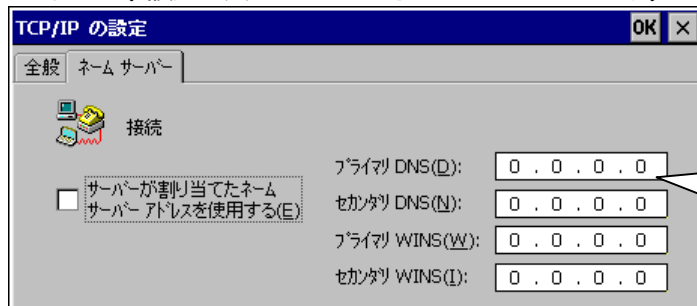
使用するデバイス(モデム、PHS)によっては、「呼び出しのオプション」での設定が必要な場合があります。

6. 新しいダイヤルアップ接続ダイアログの「TCP/IP の設定」ボタンをクリックすると、「TCP/IP の設定」ダイアログが表示されます。ご契約のプロバイダから与えられた情報にしたがって設定を行ってください。

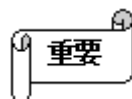


プロバイダの指示にしたがってチェックを入れます。

7. 「ネームサーバー」タブをクリックし、ご契約のプロバイダから与えられた情報にしたがって設定を行ってください。設定が終わったら「OK」ボタンをクリックします。



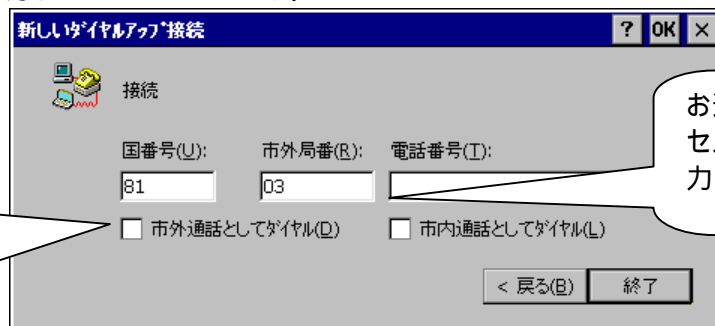
設定の必要があれば、ネームサーバーアドレスを入力します



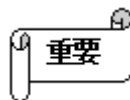
重要 TCP/IP の設定は、契約したプロバイダによって異なります。プロバイダの指示にしたがってチェックを行います。

8. 「新しいダイヤルアップ接続」に戻ったら「次へ」ボタンをクリックします。
9. 「市外通話としてダイヤル」にチェックを入れご契約中のプロバイダの通信方式および、アクセスポイント番号を確認します。確認したら市外局番と電話番号を入力します。設定を終えたら、「終了」ボタンをクリックします。

アクセスポイントが市内なら、「市内通話」市外なら「市外通話」にチェックを入れます



お近くのプロバイダのアクセスポイント電話番号を入力します



重要 市内に電話する場合でも、必ず市外局番から設定してください。


10. 「接続名」で指定した名前のアイコンが作成されることを確認します。

例



接続

「接続名」

11. 作成した「リモートネットワーク」ウィンドウ内の  アイコンをダブルクリックすると「ダイヤルアップ接続」ダイアログが表示されるのでプロバイダから提供されたユーザID、パスワード、ドメイン(通常は使用しません)を入力します。

プロバイダから取得したユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力します。「パスワードの保存」にチェックを入れるとパスワードが保存されます。



ダイヤルアップ接続

接続

ユーザ名(U): 123456

パスワード(P): *****

ドメイン(O):

☒ パスワードの保存(S)

電話番号: 0, 03 123456

発信元: 勤務先

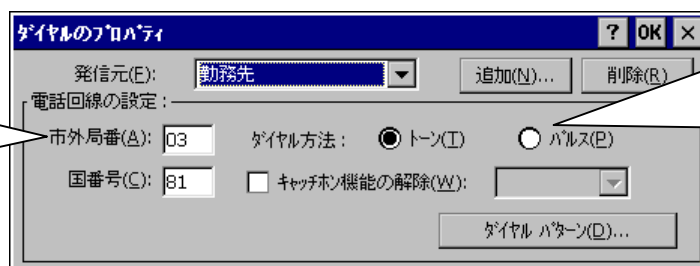
ダイヤルのプロパティ(D)...

接続(C) キャンセル

- 「ユーザーID」 ご契約のプロバイダのIDを入力します。
- 「パスワード」 ご契約のプロバイダのパスワードを入力します。
- 「ドメイン」 ご契約のプロバイダのドメインを入力します。
(ドメインは、通常は使用しません)

12. 「ダイヤルのプロパティ」をクリックし、表示された「ダイヤルのプロパティ」ダイアログで「ダイヤル方法」、市外局番を設定します。

本装置を使用している地域の市外局番を入力します。



ダイヤルのプロパティ

発信元(E): 勤務先

追加(A)... 削除(R)

電話回線の設定:

市外局番(A): 03

ダイヤル方法: ☒ トーン(T) ☐ パルス(P)

国番号(C): 81

☐ キャッチホン機能の解除(W):

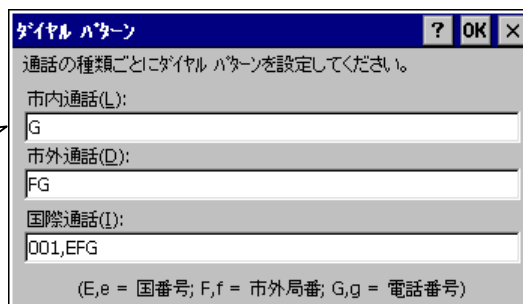
ダイヤル パターン(D)...

ダイヤルする時に「ビッポッパ」と鳴る場合はトーン
ダイヤルする時に「ジジジ」と鳴る場合はパルスです。

- 「ダイヤル方式」 ご使用の電話のダイヤル方式を選択します。
- 「市外局番」 本装置を使用している地域の市外局番を入力します。

13. 「ダイヤルパターン」ボタンをクリックし、「ダイヤルパターン」ダイアログを表示します。0 発信を使用しない場合は、各入力項目のはじめについている 0、を削除します。0 発信を使用している場合は、変更する必要はありません。設定が終わったら「OK」ボタンをクリックし、「ダイヤルパターン」と「ダイヤルのプロパティ」ダイアログを閉じます。

0 発信を使用する場合は、前に「0、」をつけます。0 発信を使用しない場合は、「0、」をつけずに設定します。



ダイヤル パターン

通話の種類ごとにダイヤル パターンを設定してください。

市内通話(L): G

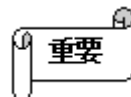
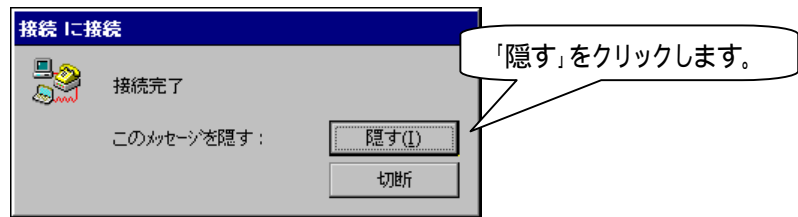
市外通話(Q): FG

国際通話(I): 001,EFG

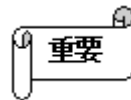
(E,e = 国番号; F,f = 市外局番; G,g = 電話番号)

(0 発信不使用時の設定)

14. 「ダイヤルアップ接続」ダイアログに戻り「接続」ボタンをクリックすると接続を開始します。接続が完了したら、「接続完了」というメッセージが現れます。そこで「隠す」ボタンをクリックしてください。



設定完了後、本装置の電源を切ると設定が消去されます。設定を保存するには、「ターミナル接続マネージャ」の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



接続の際、「キャリアが検出されませんでした」、「ダイヤル先のPCが応答しません」というメッセージが表示された場合は、設定を再確認してください。



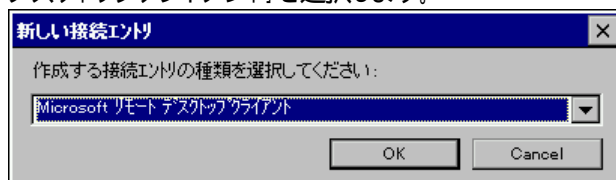
「切断」をクリックするとダイヤルアップ接続が切断されます。

3 RDP クライアントの設定

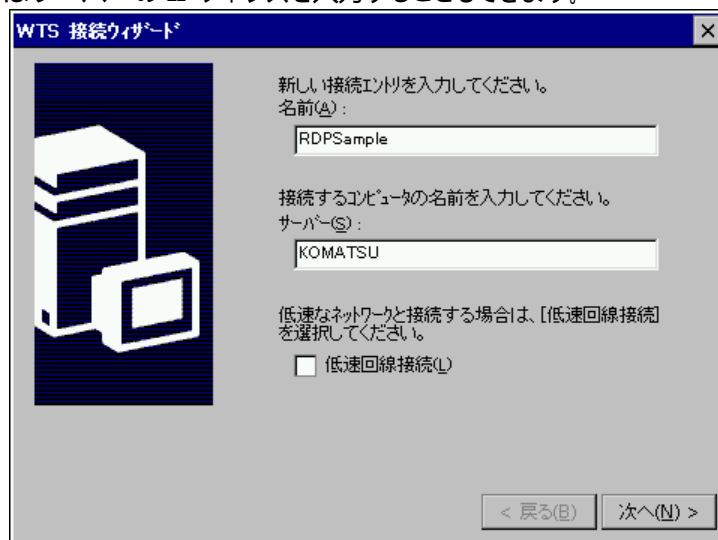
本装置を RDP クライアントとして使用する場合の設定手順を説明します。

3-1 RDP 接続エントリを作成する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で「追加」ボタンをクリックします。
2. 「Microsoft リモートデスクトップクライアント」を選択します。



3. 接続エントリの「名前」と「サーバー名」を入力します。
「サーバー名」はサーバーの IP アドレスを入力することもできます。



4. 自動ログオンを使用する場合には、「自動ログオン」をチェックして「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を入力します。



5. サーバーへの接続時にデスクトップを表示するか、アプリケーションを起動するかを設定します。
アプリケーションを起動する場合は「プログラムのファイル名」と「作業ディレクトリ」を入力します。
アプリケーションを起動する場合の入力例)
- プログラムのファイル名 : WINWORD.EXE
 - 作業ディレクトリ : C:\Program Files\Microsoft Office\Office



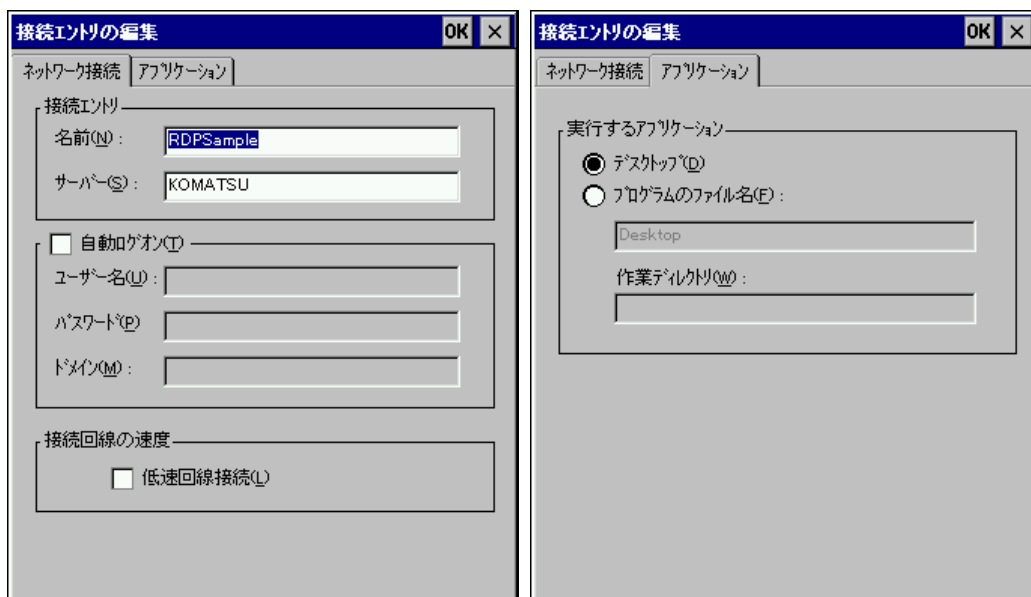
6. 「終了」ボタンをクリックし、接続エントリの作成が終了します。



7. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして作成した接続エントリを保存します。

3-2 RDP 接続エントリを変更する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で設定を変更する RDP 接続エントリを選択し、「編集」ボタンをクリックします。
2. 変更が終了したら「OK」ボタンをクリックします。



3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして変更した接続エントリを保存します。

3-3 RDP 接続エントリを削除する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で削除する RDP 接続エントリを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
2. 「はい」ボタンをクリックすると接続エントリが削除されます。

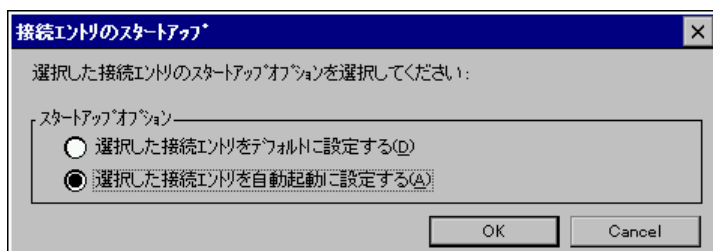


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして削除したことを記憶させます。

3-4 RDP 接続エントリを自動起動に設定する

本装置の電源立ち上げ時に自動的に選択した接続エントリを起動させることができます。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で自動起動する RDP 接続エントリを選択し、「スタートアップ」ボタンをクリックします。
2. 「選択した接続エントリを自動起動に設定する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

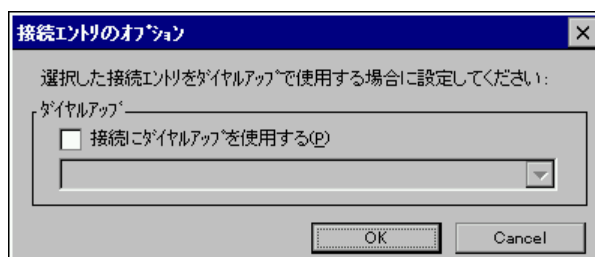


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

3-5 RDP 接続エントリをダイヤルアップで使用する

この設定は接続エントリをダイヤルアップで使用する場合にのみ使用します。
この設定を行う前に、「2-3 **ダイヤルアップ接続の場合**」の手順でダイヤルアップ接続を作成しておいてください。

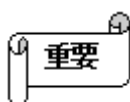
1. ターミナル接続マネージャの「設定」でダイヤルアップで使用する RDP 接続エントリを選択し、「オプション」ボタンをクリックします。
2. 「接続にダイヤルアップを使用する」をチェックし、使用するダイヤルアップ接続を選択します。



3. 「OK」ボタンをクリックします。
4. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存します。

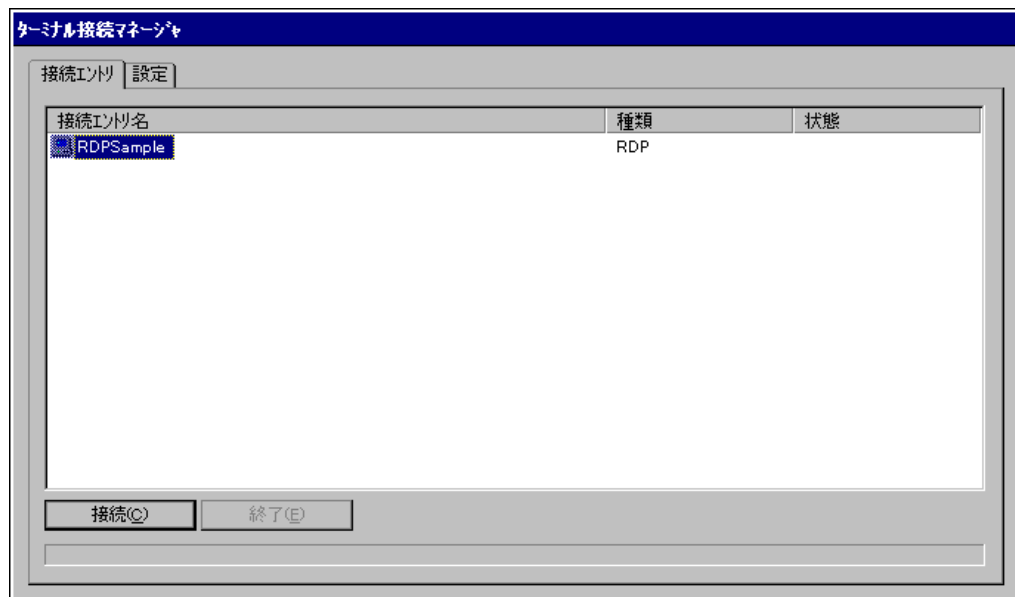
3-6 RDP クライアントの接続

作成した接続エントリでサーバーに RDP クライアントとして接続を行います。

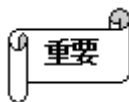
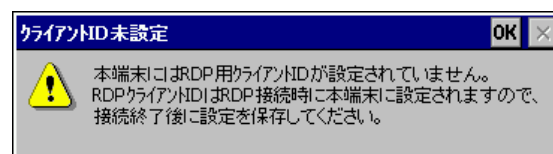


RDP クライアントとしてサーバーに接続した場合のクライアント名はデフォルトで「WebLight」が設定されています。
クライアント名を変更する場合には、「コントロールパネル」-「通信」-「デバイス名」を変更してください。
詳しくは「5-14 **通信**」をご覧ください。

1. ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で接続する RDP 接続エントリを選択し、「接続」ボタンをクリックします。(RDP 接続エントリのダブルクリックでも起動できます。)

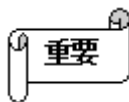
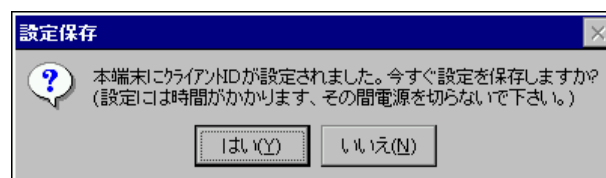


2. 本端末を初めて RDP クライアントとしてサーバーに接続した場合には、「クライアント ID 未設定」ダイアログが表示されます。
表示内容を確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。

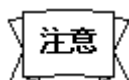


このダイアログは本端末が初めて RDP クライアントとして接続する場合にのみ表示されます。
また、このダイアログが表示された場合には、サーバーとの接続を終了するまで本体の電源を切らないでください。

3. サーバーとの接続を終了すると「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックしてください。



このダイアログは本端末が初めて RDP クライアントとしての接続を終了した場合に表示されます。
また、この設定保存を行わずに本体の電源を切った場合には、1 台の端末で複数の TSCAL (Terminal Service Access License) を消費してしまう可能性があります。

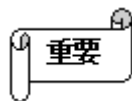


設定の間違いやサーバーとの接続の問題などで、初めての RDP クライアントとしての接続に失敗した場合にも RDP クライアント ID が本体に設定される場合があります。
この場合も「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして設定を保存してください。

3-7 RDP クライアントの切断

接続中の RDP クライアントをログオフすることなく切断します。

ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で切断する RDP 接続エントリを選択し、「終了」ボタンをクリックします。



この操作により切断した RDP 接続エントリに再度接続するとセッションを切断した状態から運用を開始します。

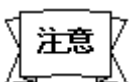
3-8 RDP 接続時のローカルプリンタの使用

RDP セッションでは Windows2000 サーバーに接続している場合には、RDP クライアントに接続されたプリンタ(ローカルプリンタ)から印刷することができます。



接続しているサーバーが WindowsNT4.0TSE の場合には RDP セッションでローカルプリンタを使用できません。

1. Windows2000 サーバー側に使用するプリンタのドライバを用意します。



プリンタドライバは WindowsCE 用のドライバではなく、Windows2000 用のドライバを用意してください。

2. 本装置を RDP クライアントとして Windows2000 サーバーと接続します。
接続後に RDP クライアントから「スタート」-「プログラム」-「管理ツール」-「ターミナルサービス構成」を起動してください。

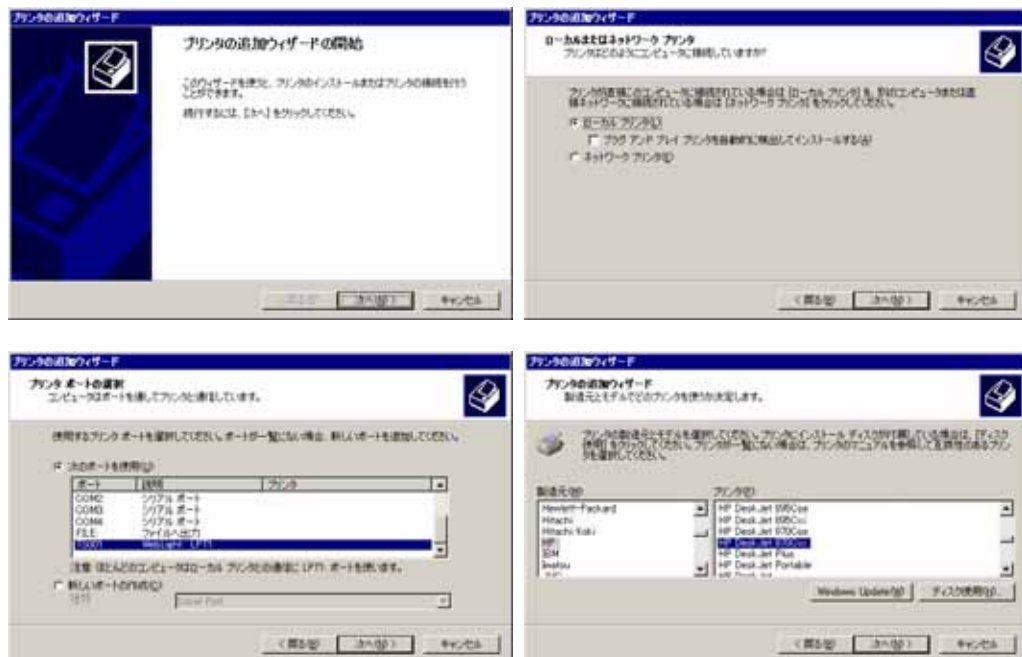


「ツリー」の「ターミナルサービス構成」から「接続」を選択し、「RDP-Tcp」をダブルクリックして「RDP-Tcp のプロパティ」ダイアログを表示させてください。
ここでは、特に「クライアントの設定」部分の設定項目を確認してください。

3. 次に RDP クライアントから「スタート」-「設定」-「プリンタ」を起動し、「プリンタの追加」をダブルクリックします。

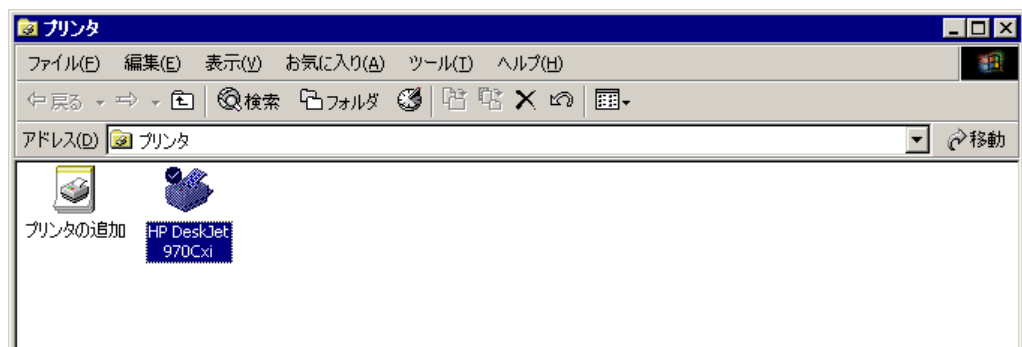


4. 「プリンタの追加ウィザード」が起動します。
下記図を参考にしてローカルプリンタの設定を行ってください。





5. 「プリンタ」ウィンドウに追加したローカルプリンタのアイコンが表示されたら、設定は終了です。

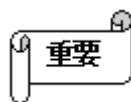


6. 印刷時、出力先にローカルプリンタを指定すると、ローカルプリンタから印刷することができます。



4 ICA クライアントの設定

本装置を ICA クライアントとして使用する場合は設定手順を説明します。



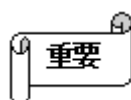
ICA クライアントのセットアッププログラムは 2002 年 12 月現在、以下の CITRIX のホームページからダウンロードが可能です。

本装置では **Windows CE MIPS 用**のセットアッププログラムを使用してください。

http://www.citrix.com/download/ica_clients.asp

ICA クライアントのマニュアルについては 2002 年 12 月現在、以下の CITRIX のホームページから閲覧が可能です。

<http://www.citrix.co.jp/support/techdoc/index.html>

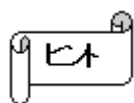
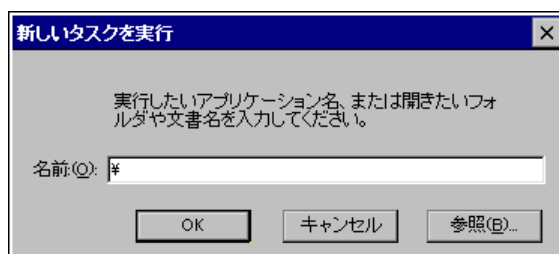


弊社では、2002 年 12 月の時点で提供されている日本語版 ICA クライアント (Ver6.30.1058) にて動作確認を実施しています。

ICA クライアントの仕様が変更となる可能性があるため、将来にわたり動作を保証することはできません。

4-1 ICA クライアントをインストールする

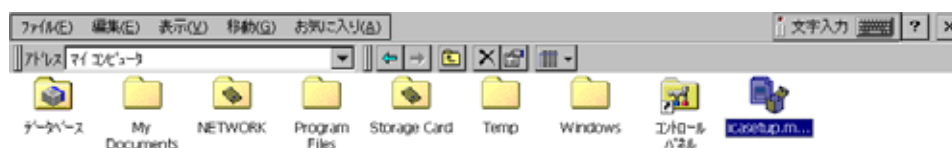
1. ストレージカード上に ICA WinCE クライアントセットアッププログラム(icasetup.mips.cab)を保存します。
2. ターミナル接続マネージャの「設定」で「新しいタスク」ボタンをクリックします。
3. 「名前」に「¥」と入力し、「OK」ボタンをクリックして下さい。



「新しいタスクを実行」ダイアログで、「名前」にフォルダ名を入力して OK ボタンをクリックするとエクスプローラが起動します。

エクスプローラでは、フォルダの作成、ファイルのコピーなど、ファイルに関する操作を行うことが可能です。

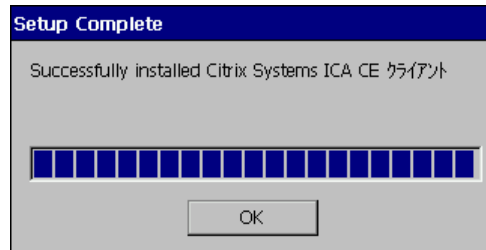
4. PCMCIA スロットにストレージカードを挿入し、セットアッププログラムをルートフォルダにコピーします。



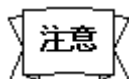
5. ルートフォルダにコピーしたセットアッププログラムをダブルクリックし、起動したダイアログ上で ICA クライアントの保存先を指定します。ここでは保存先を「¥Storage Card¥」に変更して「OK」ボタンをクリックします。



6. ライセンス契約書が表示されます。内容をよく確認したうえで「同意する」ボタンをクリックします。
7. インストールが開始します。インストールが終了したら OK ボタンをクリックします。

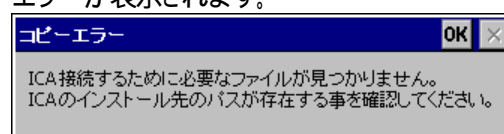


8. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存します。
9. 本装置を再起動します。
10. ICA クライアントが正常にインストールされている場合、電源起動後に以下の画面が数秒表示されます。(この間、ストレージカード内のモジュールを本体メモリ上にコピーしています。)



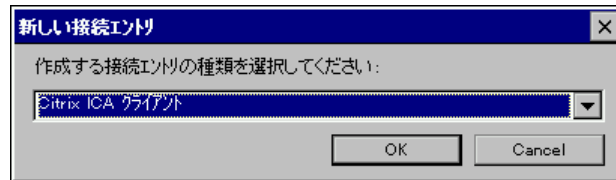
上記の画面表示中にストレージカードを外すと、ICA クライアントの接続が正常に行なえなくなる可能性があります。

ICA クライアントを保存したストレージカードが接続されていない場合、以下のようなエラーが表示されます。

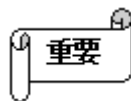
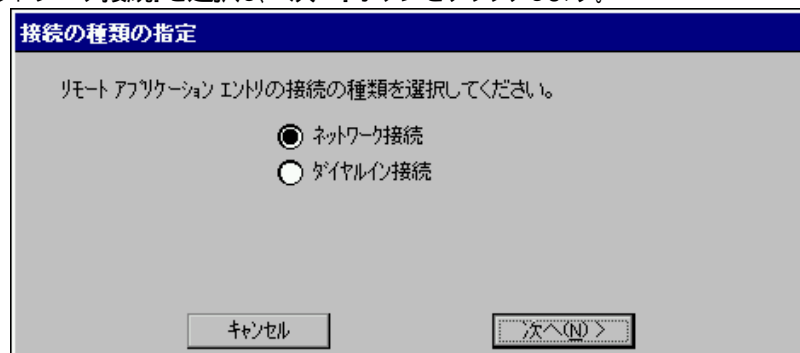


4-2 ICA 接続エントリを作成する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で「追加」ボタンをクリックします。
2. 「Citrix ICA クライアント」を選択します。



3. Citrix サーバーへの接続タイプを選択します。
ここで「ネットワーク接続」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

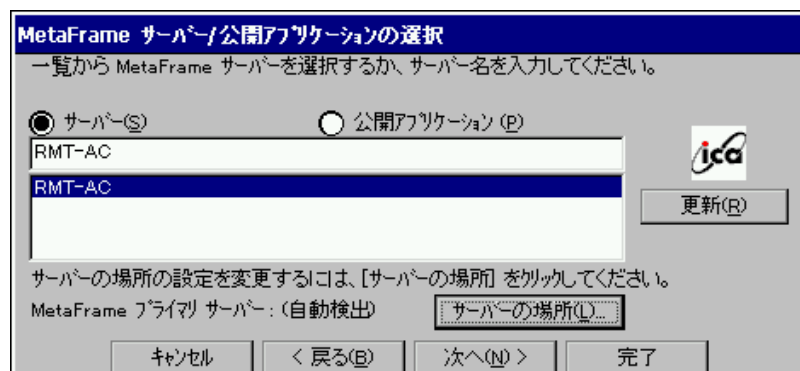


「2-3 **ダイヤルアップ接続の場合**」の手順でダイヤルアップ接続を行った場合には、「ネットワーク接続」になります。
「ダイヤルイン接続」は上記設定を行わず、モデムから直接 Citrix サーバーに接続する方法で、本装置では「ダイヤルイン接続」をサポートしていません。

4. 接続する Citrix サーバーを指定します。

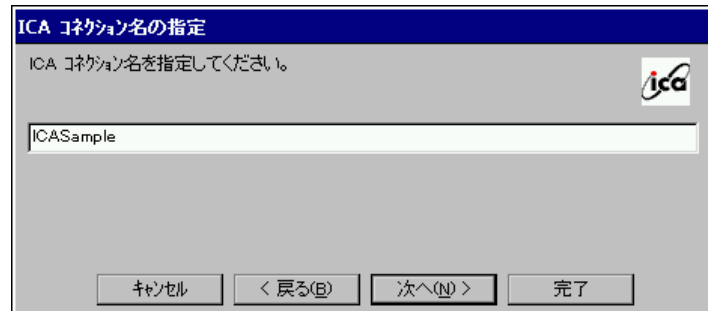
「更新」ボタンをクリックすると、ローカルネットワーク上に Citrix サーバーが存在している場合は接続可能な Citrix サーバー一覧がリストに表示されます。

異なるネットワークに存在する Citrix サーバーの一覧は表示されませんので、その場合は「サーバーの場所」ボタンをクリックして Citrix サーバーの場所を設定し、「更新」ボタンをクリックしてください。



「サーバー」か「公開アプリケーション」を選択し、リストより Citrix サーバーかアプリケーションを指定します。「次へ」ボタンをクリックします。

5. 接続エントリの名前(タイトル)を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。



ICA コネクション名の指定

ICA コネクション名を指定してください。

ICASample

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

6. Citrix サーバーとの接続時にアプリケーションを実行する場合は、「コマンドライン」と「作業ディレクトリ」を指定します。何も入力しなければデスクトップが表示されます。
 なお、「公開アプリケーション」を選択した場合にはこの画面は表示されません。
 「次へ」ボタンをクリックします。



アプリケーションの指定

コマンドライン:

作業ディレクトリ:

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

7. 自動ログオンの設定をします。何も入力しなければ Citrix サーバーとの接続時に「ユーザ名」と「パスワード」の入力を求められます。
 「次へ」ボタンをクリックします。



ログイン情報の指定

必要に応じて、リモート アプリケーションに接続するためのログイン情報を指定できます。

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン:

☐ スマート カード ログインを有効にする

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

8. ウィンドウの表示色数を選択します。

詳細な設定を行なわない場合は、「完了」ボタンをクリックし接続エントリの作成を終了します。



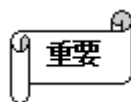
ウィンドウのオプションの選択

ここでは、クライアント デバイスの画面に、どのようにアプリケーション ウィンドウを表示するかを指定します。

ウィンドウの色数

☐ 16 色 ☒ 256 色 ☐ High Color ☐ True Color

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了



本装置の画面の色数が 256 色の場合、ウィンドウの色数は「16 色」または「256 色」を設定することができます。
画面の色数がフルカラーの場合、ウィンドウの色数は「16 色」、「256 色」、「High Color」、「True Color」を設定することができます。
本装置の画面の色数については「5-2 WebLight 設定」を参照してください。

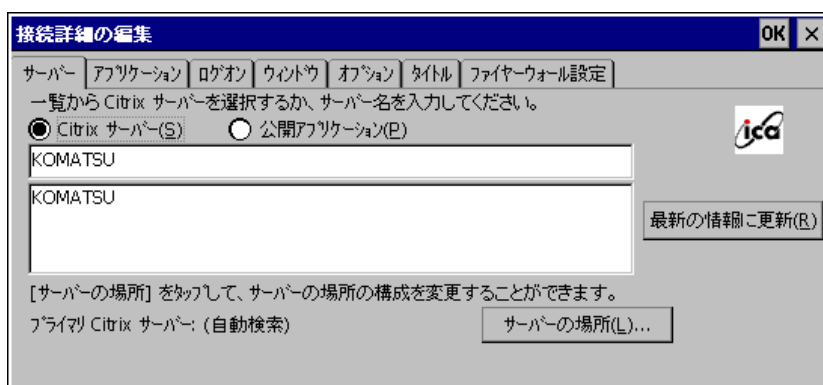


データ圧縮、暗号化、サウンド、ファイアウォールなどの設定を行なう場合は、「次へ」ボタンをクリックして設定を行なって下さい。
詳細については ICA クライアントのマニュアルを参照してください。

9. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして作成した接続エントリを保存します。

4-3 ICA 接続エントリを変更する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で設定を変更する ICA 接続エントリを選択し、「編集」ボタンをクリックします。
2. 変更が終了したら「OK」ボタンをクリックします。



3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして変更した接続エントリを保存します。

4-4 ICA 接続エントリを削除する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で削除する ICA 接続エントリを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
2. 「はい」ボタンをクリックすると接続エントリが削除されます。

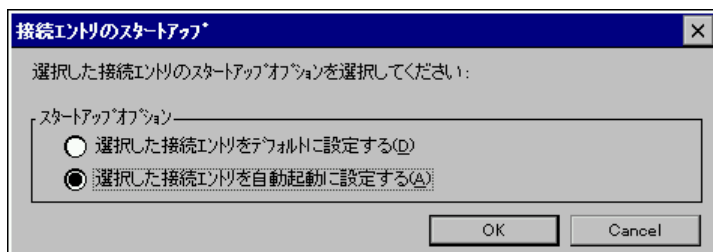


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして削除したことを記憶させます。

4-5 ICA 接続エントリを自動起動に設定する

本装置の電源立ち上げ時に自動的に選択した接続エントリを起動させることができます。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で自動起動する ICA 接続エントリを選択し、「スタートアップ」ボタンをクリックします。
2. 「選択した接続エントリを自動起動に設定する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

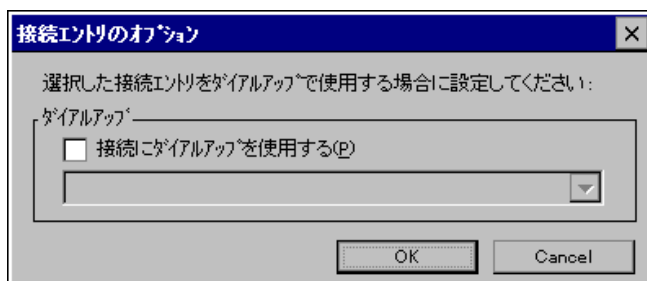


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4-6 ICA 接続エントリをダイヤルアップで使用する

この設定は接続エントリをダイヤルアップで使用する場合にのみ使用します。この設定を行う前に、「2-3 **ダイヤルアップ接続の場合**」の手順でダイヤルアップ接続を作成しておいてください。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」でダイヤルアップで使用する ICA 接続エントリを選択し、「オプション」ボタンをクリックします。
2. 「接続にダイヤルアップを使用する」をチェックし、使用するダイヤルアップ接続を選択します。



3. 「OK」ボタンをクリックします。
4. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存します。

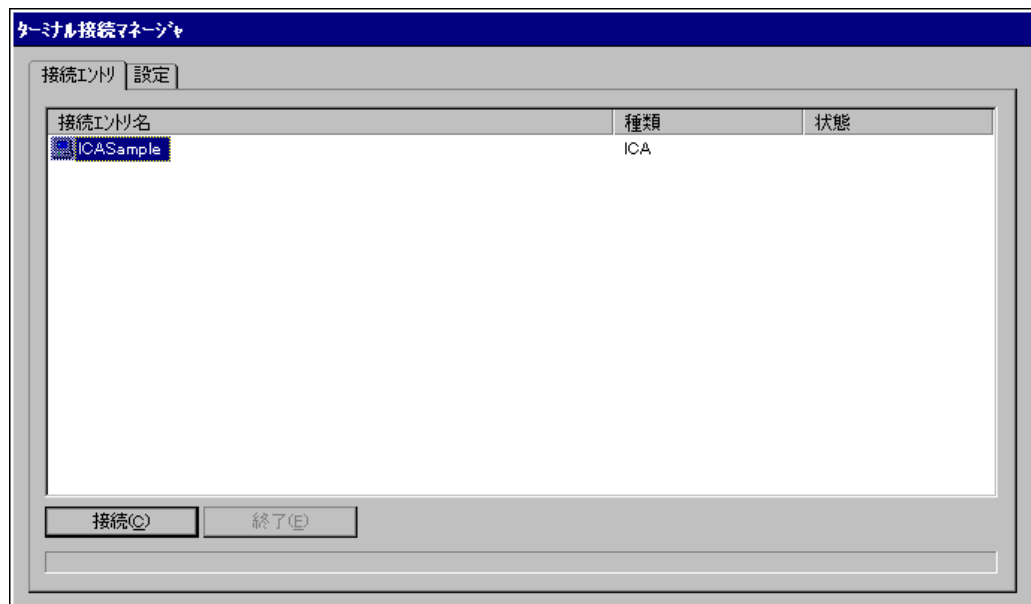
4-7 ICA クライアントの接続

作成した接続エントリでサーバーに ICA クライアントとして接続を行います。

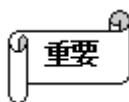
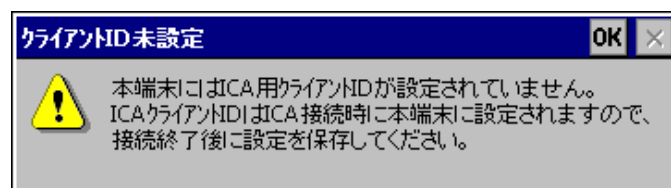


ICA クライアントとしてサーバーに接続した場合のクライアント名はデフォルトで「WebLight」が設定されています。クライアント名を変更する場合には「ICA 詳細設定」-「基本設定」-「クライアント名」を変更してください。詳しくは「4-9 **ICA 詳細設定**」をご覧ください。

1. ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で接続する ICA 接続エントリを選択し、「接続」ボタンをクリックします。(ICA 接続エントリのダブルクリックでも起動できます。)

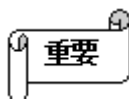
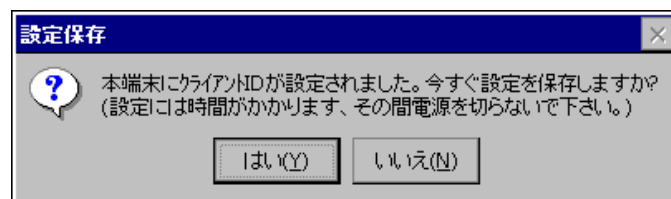


2. 本端末を初めて ICA クライアントとしてサーバーに接続した場合には、「クライアント ID 未設定」ダイアログが表示されます。
表示内容を確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。

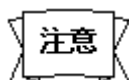


このダイアログは本端末が初めて ICA クライアントとして接続する場合にのみ表示されます。
また、このダイアログが表示された場合には、サーバーとの接続を終了するまで本体の電源を切らないでください。

3. サーバーとの接続を終了すると「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックしてください。



このダイアログは本端末が初めて ICA クライアントとしての接続を終了した場合に表示されます。
また、この設定保存を行わずに本体の電源を切った場合には、1 台の端末で複数の TSCAL (Terminal Service Access License) を消費してしまう可能性があります。

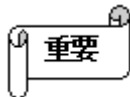


設定の間違いやサーバーとの接続の問題などで、初めての ICA クライアントとしての接続に失敗した場合にも ICA クライアント ID が本体に設定される場合があります。
この場合も「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして設定を保存してください。

4-8 ICA クライアントの切断

接続中の ICA クライアントをログオフすることなく切断します。

ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で切断する ICA 接続エントリを選択し、「終了」ボタンをクリックします。



この操作により切断した ICA 接続エントリに再度接続するとセッションを切断した状態から運用を開始します。

4-9 ICA 詳細設定

すべての ICA 接続エントリに適用される設定の変更方法を説明します。

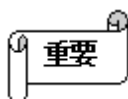
ターミナル接続マネージャの「設定」で「ICA 詳細設定」ボタンをクリックし、設定を行います。

設定を変更した場合には、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存してください。

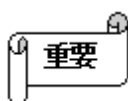
- ショートカットキー

ICA クライアントのショートカットキーとして使用するキーの設定を行います。

すべてのエントリに適用する設定			
ショートカット キー	基本設定	サーバーの場所	ファイアウォールの設定
接続状態	Ctrl 0	Ctrl+Eso	Ctrl 4
ICA セッションを開じる	Ctrl 1	Alt+Eso	Ctrl 5
Eso	Ctrl 2	Alt+Tab	Ctrl 6
Ctrl+Alt+Del	Ctrl 3	Alt+Shift+Tab	Ctrl 7



ショートカットキーはデフォルト状態では全て無効になっています。設定変更後に全てのショートカットキーを無効にする場合には、「コントロールパネル」-「WebLight」-「クライアント」で「ショートカットキーを無効にする」ボタンをクリックしてください。



106 キーボード内のテンキーはショートカットキーに対応していません。

◆ ショートカットキーの各機能

名前	説明
接続状態	ICA クライアントの接続状態を表示します。
ICA セッションを閉じる	ICA クライアントを Citrix サーバーから切断し、ローカルデスクトップのクライアントウィンドウを閉じます。このショートカットキーを使用すると ICA セッションは Citrix サーバー上で切断された状態で実行し続けます。セッションを切断した状態で実行し続けたくない場合は、ログオフしてください。
Esc	Esc キーを入力します。
Ctrl + Alt + Del	Citrix サーバー上でセキュリティダイアログボックスを表示します。
Ctrl + Esc	MetaFrame サーバーの場合は Windows のスタートメニューを表示します。
Alt + Esc	ICA セッション内で実行しているアプリケーションや最小化されたアイコンの中でフォーカスを循環させます。
Alt + Tab	ICA セッション内のすべてのアプリケーションを順次切り替えます。
Alt + Shift + Tab	「Alt + Tab」と逆方向にアプリケーションを順次切り替えます。

● 基本設定

通常のウィンドウ色とクライアント名を設定します。



➤ シリアル番号

MetaFrame サーバーに接続する場合には設定する必要はありません。

➤ デフォルトのウィンドウの色数

Citrix サーバー接続時の表示色数を設定します。

➤ クライアント名

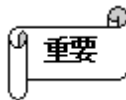
クライアントデバイスの名前を設定します。

本装置ではデフォルトで「WebLight」が設定されています。

Citrix サーバーは固有なクライアント名を使って特定のクライアントデバイスと関連したリソース (割り当てられるプリンタなど) を識別します。

よって、クライアント名は Citrix ICA クライアントを実行している各コンピュータごとに固有の名前を設定する必要があります。

固有のクライアント名を使用しないとデバイスマッピングとアプリケーションの公開機能が正しく動作しない場合があります。



本装置の画面の色数が 256 色の場合、ウィンドウの色数は「16 色」または「256 色」を設定することができます。
画面の色数がフルカラーの場合、ウィンドウの色数は「16 色」、「256 色」、「High Color」、「True Color」を設定することができます。
本装置の画面の色数については「5-2 WebLight 設定」を参照してください。

- サーバーの場所

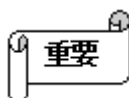
ここで指定された情報を使って、使用可能な Citrix サーバーと公開アプリケーションを検索します。

- ファイヤーウォールの設定

SOCK、Secure プロキシ、代替アドレス割り当て、SSL/TLS の使用に関する設定を行います。

- Program Neighborhood Lite

Program Neighborhood Lite モードの使用に関する設定を行ないます。



ICA クライアントの設定についての詳細は、ICA クライアントのマニュアルを参照してください。

4-10 ICA 接続時のローカルプリンタの使用

ICA セッションでは Citrix サーバーのプリンタだけでなく、ICA クライアントに接続されたプリンタ(ローカルプリンタ)から印刷することができます。

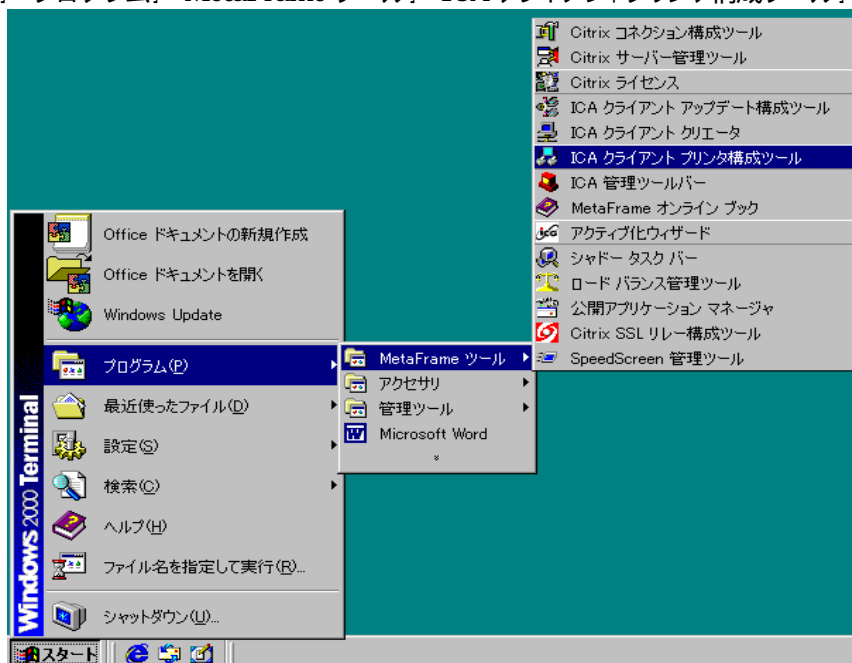
1. Citrix サーバー側に使用するプリンタのドライバを用意します。



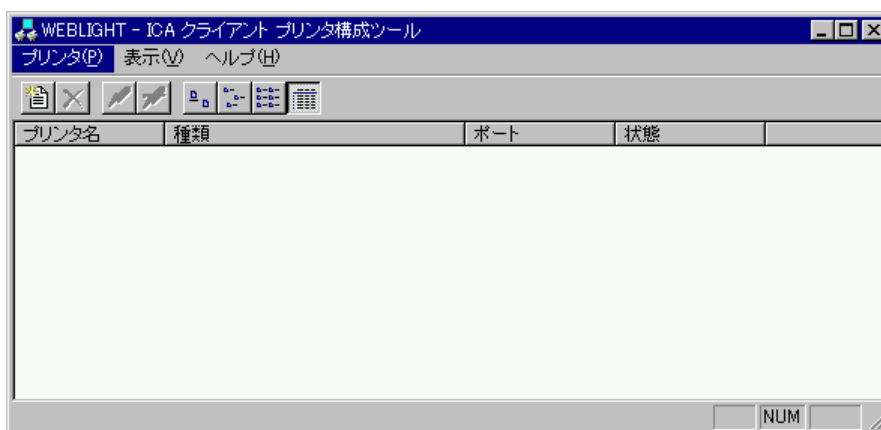
プリンタドライバは WindowsCE 用のドライバではなく、Citrix サーバー側の OS (WindowsNT4.0TSE/Windows2000) 用のドライバを用意してください。

2. 本装置を ICA クライアントとして Citrix サーバーと接続します。
接続後に ICA クライアントから次の手順で「ICA クライアントプリンタ構成ツール」を起動します。

- WindowsNT4.0TSE の場合:
「スタート」-「プログラム」-「MetaFrame 管理ツール(共通)」-「ICA クライアントプリンタ構成ツール」
- Windows2000 Server の場合:
「スタート」-「プログラム」-「MetaFrame ツール」-「ICA クライアントプリンタ構成ツール」



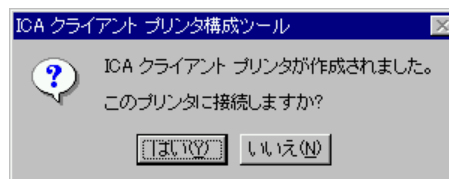
3. 「ICA クライアントプリンタ構成ツール」ウィンドウが表示されます。
「プリンタ」-「新規」を実行します。



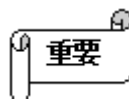
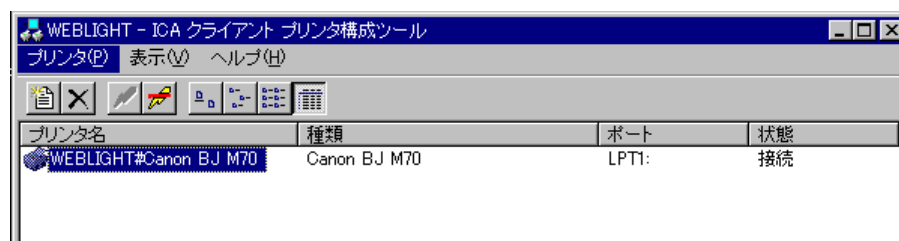
4. 「ICA クライアント プリンタの追加ウィザード」が起動します。
使用するプリンタの選択、プリンタポートの選択、プリンタ名の入力を行い、「完了」ボタンをクリックします。



5. 「ICA クライアントプリンタが作成されました。」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



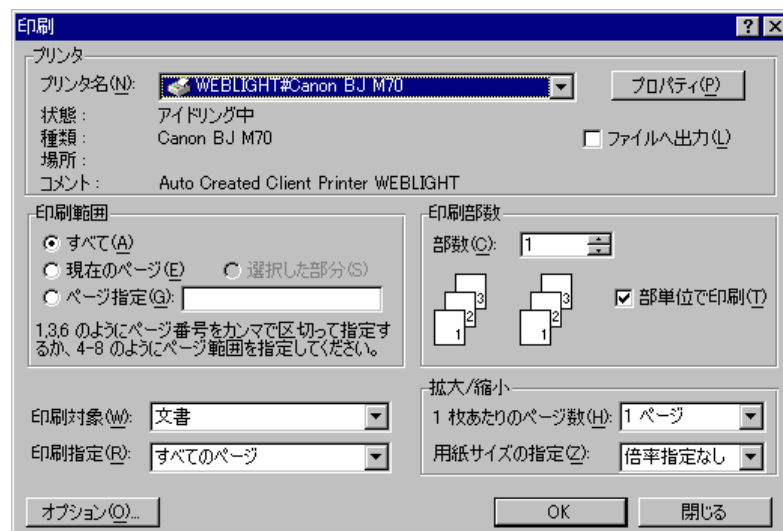
6. 「ICA クライアントプリンタ構成ツール」ウィンドウに、追加したプリンタが表示されたら設定は終了です。



ローカルプリンタの名前は、**クライアント名#プリンタ名**となります。

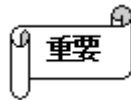
クライアント名は、「4-9 ICA 詳細設定」の「基本設定」で設定することが可能です。

7. 印刷時、出力先にローカルプリンタを指定すると、ローカルプリンタから印刷することができます。



5 コントロールパネルの設定

本装置を使用する際の基本的な使用環境の設定や、本装置のハードウェア、システムなどに関する各種の調節を行うことができます。本章ではその主要な設定の説明をします。



設定を変更した場合には必ずターミナル接続マネージャの「設定」で「設定保存」ボタンをクリックし、設定を保存してください。
また、変更した項目によっては本装置の電源を再起動する必要があります。

5-1 コントロールパネルの起動

ターミナル接続マネージャの「設定」で「コントロールパネル」ボタンをクリックすると、コントロールパネルが起動します。ウィンドウ内の各アイコンをダブルクリックするとその項目を設定する為のダイアログが表示されます。

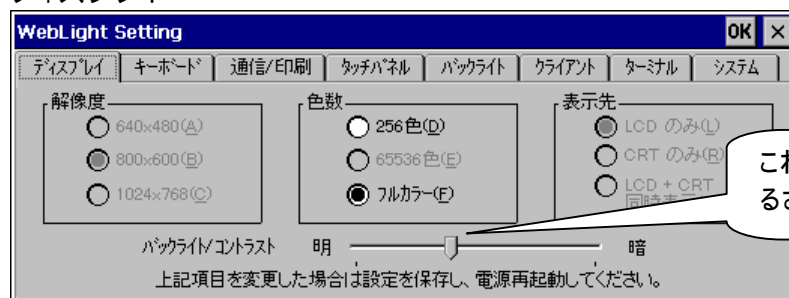


5-2 WebLight 設定



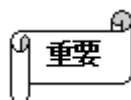
WebLight をダブルクリックすると「WebLight Setting」ダイアログが表示されます。本装置固有の設定環境をここで設定することができます。

● ディスプレイ



これをスライドさせると明るさが変化します。

バックライト/コントラスト(明るさ)はスライダーを動かすことで変更できます。
また、画面の色数を設定することができます。
その他のグレイアウト表記されている部分はデフォルトのままで設定することはできません。



本装置をシンクライアント端末として使用する場合は、画面の色数は 256 色または、フルカラー(16777216 色)が使用できます。
本装置を Web 端末とシンクライアント端末とで切り替えた場合、画面の色数は変更されません。ただし Web 端末(65536 色)からシンクライアント端末へと切り替えた場合には、画面の色数はフルカラーへと変更されます。

● キーボード

外付けキーボード種類及び、NumLock 設定の有無を設定します。



使用するソフトウェアキーボードの詳細設定を行えます。

外付けキーボード設定では、使用するキーボードの種類と本装置起動時の NumLock 設定を行うことができます。

ソフトウェアキーボード選択では、使用するソフトウェアキーボードの種類(フルキーボード/テンキー)やテンキーのサイズを設定します。

重要

ソフトウェアキーボードを使用した場合には、外付けキーボードの種類は強制的に 106 日本語キーボードに設定されます。

● 通信 / 印刷

有線 LAN 使用時は、上にチェックを入れてください。無線 LAN 使用時、ダイヤルアップ接続時は下にチェックを入れます。



通信 / 印刷では、「LAN 接続」の設定を行うことができます。

LAN 接続を有線で行うか、無線で行うかの選択ができます。また、使用する LAN のラインスピードを自動認識させるか 10Mbps、か 100Mbps いずれか固定して使用する事ができます。

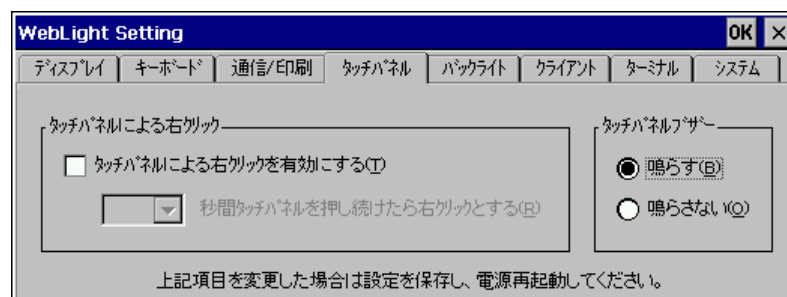
重要

ダイヤルアップ接続時及び無線 LAN 使用時は必ず、「本体の LAN を無効にする」にチェックを入れてください。

重要

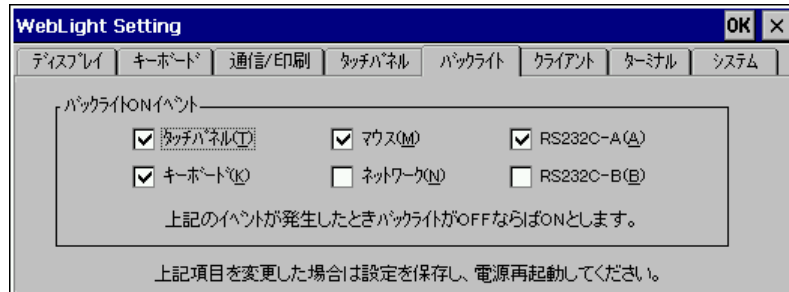
本装置をシンクライアント端末として使用する場合は、印刷設定を変更する必要はありません。

● タッチパネル

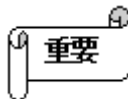


「タッチパネル」タブをクリックして表示されるダイアログでは、ディスプレイを指定時間押さえる事でマウスを使用せず右クリックの機能を使用することができます。また、タッチパネルブザー音の設定も行うことができます。

● バックライト

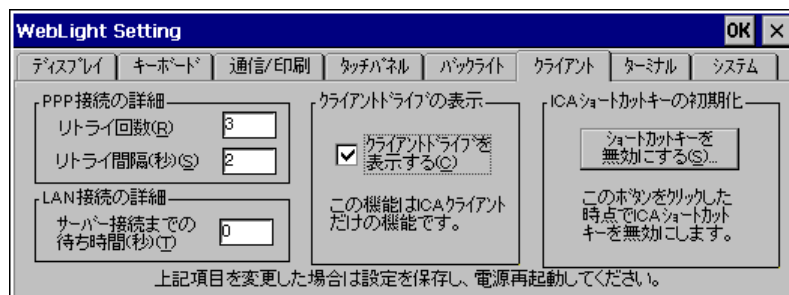


バックライトタブをクリックして表示されるダイアログでは、本章「画面のプロパティ」で「バックライトを自動消灯にする」設定を行っていた場合、バックライトを ON にするイベントを設定することができます。



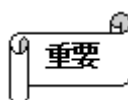
「バックライトの制御」ですべてのパラメータを OFF にした状態でバックライトが消灯した場合には電源再起動による復帰しかできなくなります。

● クライアント



ICA/RDP クライアントとして接続する際の設定を行います。

- PPP 接続の詳細
PPP 接続の失敗時にリトライを行う回数、およびリトライ間隔を設定します。
- LAN 接続の詳細
サーバーに接続する時、接続を待機する時間を設定します。
DHCP サーバーが起動するまで待機する必要がある場合、変更を行って下さい。
- クライアントドライブの表示
この設定をチェックすると ICA クライアント接続をした際に、本装置のローカルドライブをクライアントドライブとして割り当てます。

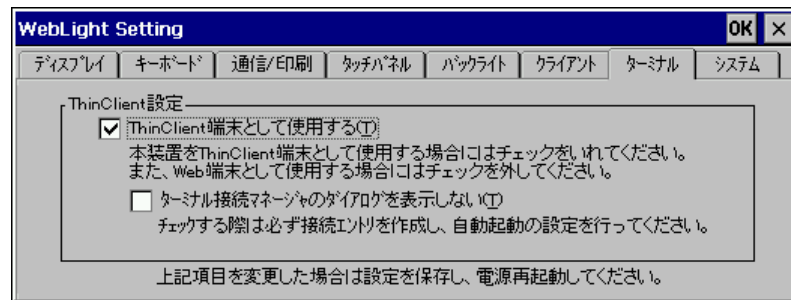


本装置のローカルドライブは「Client」の C\$ として表示されます。
また、ドライブの割り当ては Citrix サーバー側で行います。

- ICA ショートカットキーの初期化
「ショートカットキーを無効にする」ボタンをクリックすると、ターミナル接続マネージャ

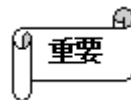
の「ICA 詳細設定」-「ショートカットキー」で設定されたものを解除します。

● ターミナル



本装置をシンクライアント端末として使用する際の設定を行います。

- **ThinClient 端末として使用する**
この設定をチェックすると本装置をシンクライアント端末として使用することができます。チェックを外した場合は、本装置を Web 端末として使用することができます。
- **ターミナル接続マネージャのダイアログを表示しない**
この設定をチェックすると、本装置の電源立ち上げ後にターミナル接続マネージャのダイアログが表示されません。また、ICA/RDP 接続を終了した場合にもターミナル接続マネージャが表示されません。
ICA/RDP 接続を自動起動に設定している場合に使用してください。



ターミナル接続マネージャのダイアログを非表示設定から表示設定に切り替える場合には、装置の電源を一度切断し、画面右下のタッチパネルを押さえた状態で電源を起動して下さい。

ターミナル接続マネージャが起動したらコントロールパネルを起動してこのチェックをはずして下さい。

詳しくは、「6-1 設定変更ガード機能」をご覧ください。

● システム情報



本装置のファームウェアのバージョン情報および本体の MAC アドレスを確認できます。

5-3 無線 LAN 設定 / Wireless Network

無線 LAN の設定を行います。

「無線 LAN 設定」は「Komatsu Wireless LAN Card KC-11B20Z1」の設定

「Wireless Network」アイコンは「ORiNOCO Wireless Ethernet Driver」の設定です。

詳しくは「2-2 無線 LAN 接続の場合」をご覧ください。

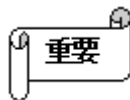
5-4 キーボード



をダブルクリックするとキーボードのプロパティダイアログが表示されます。



このダイアログでは文字のリピートの有無を設定できます。リピート有効時、リピート開始までの待ち時間やリピート間隔を設定することができます。



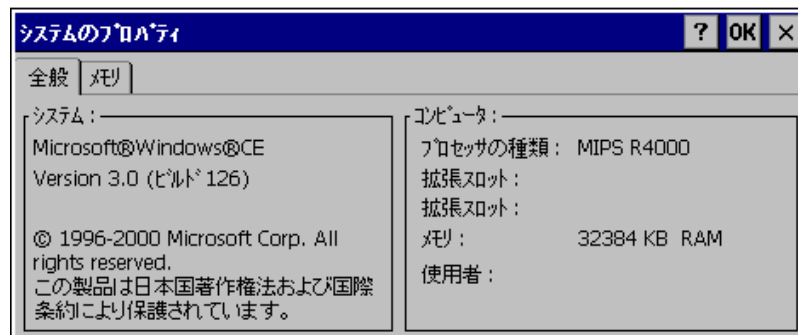
この設定はソフトウェアキーボードには適用されません。

5-5 システム



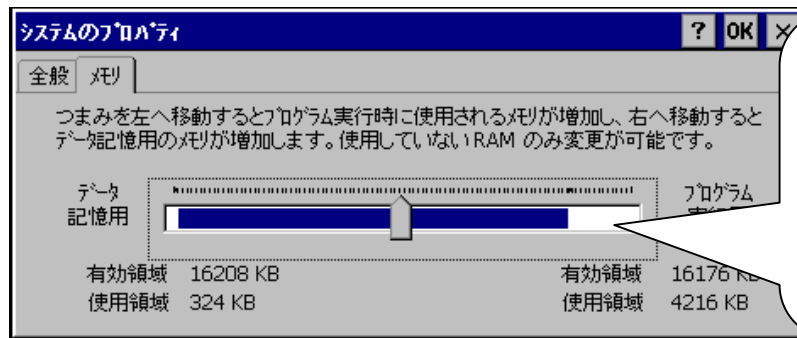
をダブルクリックすると、システムのプロパティダイアログが表示されます。

● 全般



ここでは本装置に使われている OS、ハードウェアの仕様が表示されます。

- メモリ



ここでは本装置で使用されているメモリの使用状態を確認することができます。スライダの位置を変更することでメモリの用途割合を変更することが可能です。

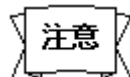
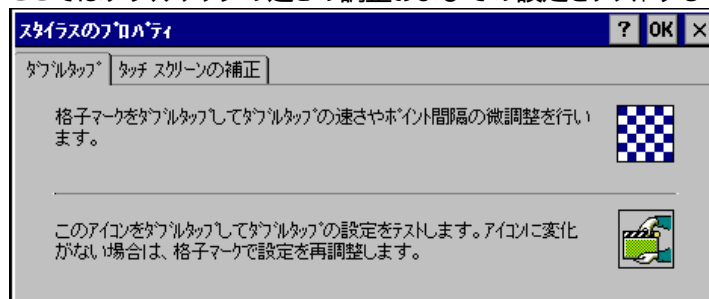
5-6 スタイラス



をダブルクリックすると、スタイラスのプロパティダイアログが表示されます。

- ダブルタップ

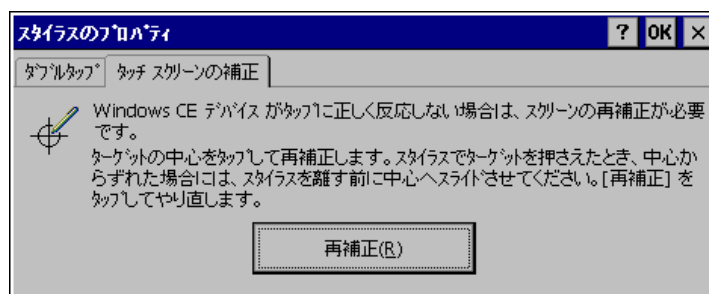
ここではダブルタップの速さの調整およびその設定をテストすることができます。



ダブルクリックの調整を行うとダブルタップが入りづらくなる場合があります。なるべくデフォルトのままで使用してください。

- タッチスクリーンの補正

ここでは、タッチスクリーンの補正を行うことができます。

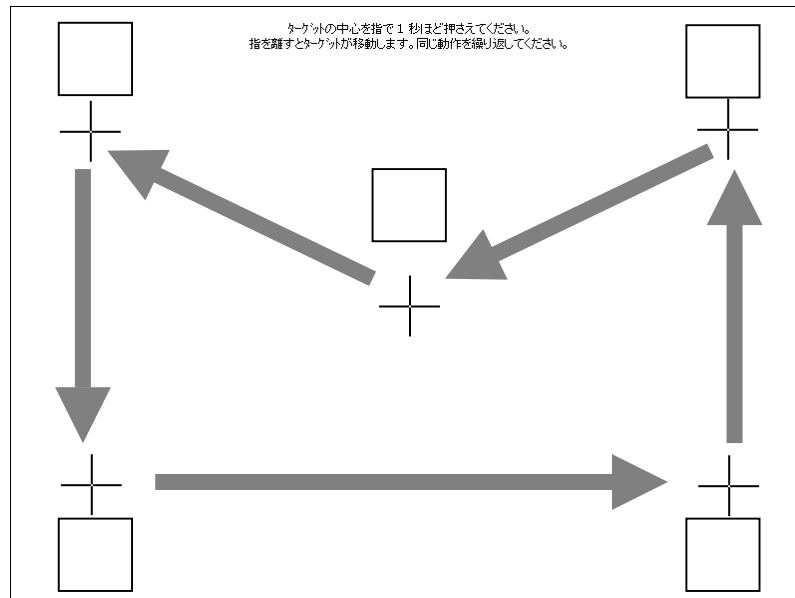


再補正(R)

をクリックすると、タッチスクリーンの補正プログラムが起動します。

➤ 補正手順

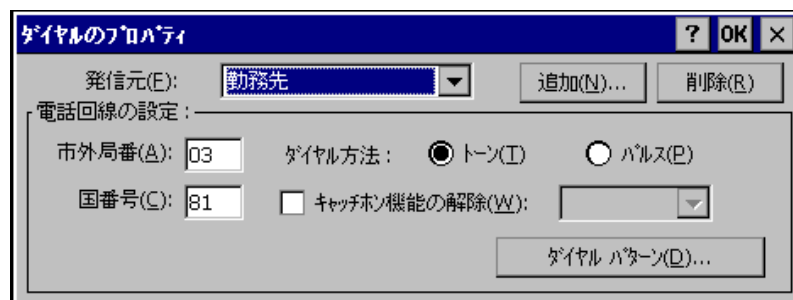
1. 表示される「+」の中心を ~ の順にクリックします。
2. 「+」が画面中央に戻り、「新しい補正内容を設定しました。画面をタップすると、新しい設定内容が登録されます。」と表示されたらタッチパネルをクリックします。



5-7 ダイアル



ダイヤルをダブルクリックするとダイヤルのプロパティダイアログが表示されます。ダイヤル方式についての設定を行います。詳しくは、「2-3 **ダイヤルアップ接続の場合**」をお読みになるか、ヘルプを参照してください。

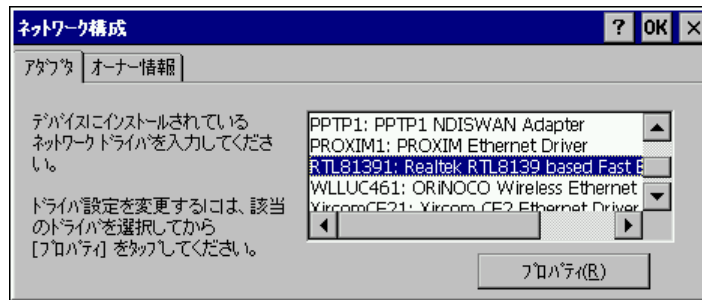


5-8 ネットワーク



ネットワークをダブルクリックするとネットワーク構成ダイアログが表示されます。

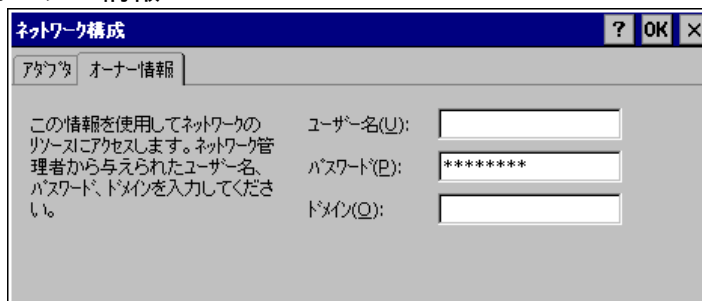
● アダプタ



ネットワークに接続するための IP アドレス、ネームサーバーアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。

本装置内蔵の有線 LAN を使用する場合には「**RTL81391**」を設定してください。

● オーナー情報

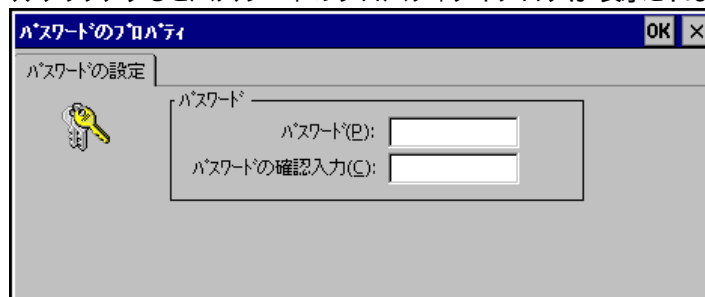


ダイヤルアップ接続時、リモートネットワークに接続するためにご契約のプロバイダのパスワード、ユーザーID、ドメイン名を設定します。

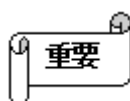
5-9 パスワード



パスワードをダブルクリックするとパスワードのプロパティダイアログが表示されます。



パスワードを設定するとターミナル接続マネージャに「パスワード」ボタンが表示され、設定を変更する際にパスワード入力が必要になります。



重要

パスワードを設定する場合、以下の制限事項があります。

- パスワード入力可能文字は 40 文字です。
- パスワードは大文字、小文字を区別しません。
- デフォルトではパスワードは設定されていません。

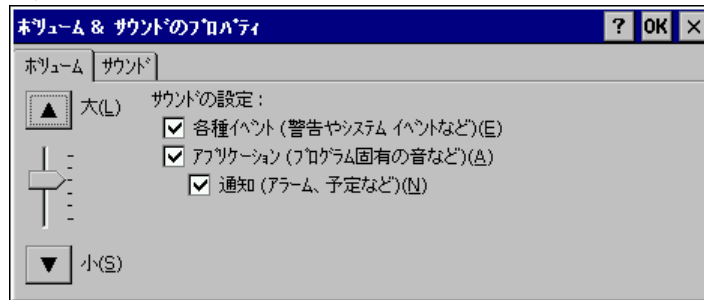
5-10 ボリューム&サウンド



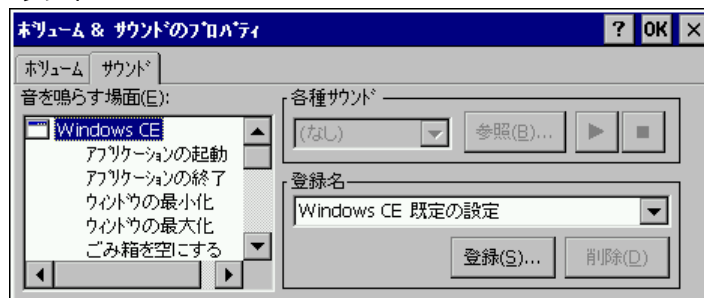
ボリューム & サウンドをダブルクリックするとボリューム & サウンドのプロパティダイアログを表示します。

● ボリューム

ボリュームの大きさの設定や各種イベント発生時などで音を鳴らす設定を行うことができます。



● サウンド

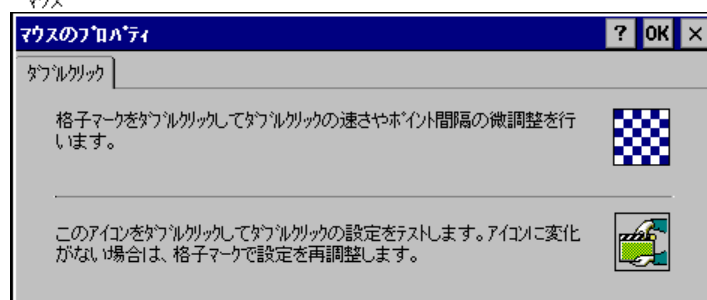


「登録名」で「サウンドなし」を選択するとすべての場面で音を鳴らさない設定にできます。また、すべての場面で鳴らす場合は「すべて」を選択してください。

5-11 マウス



マウスをダブルクリックするとマウスのプロパティダイアログを表示します。



ここでは WindowsCE 上のマウスのダブルクリックの速度の速さを設定することができます。

5-12 画面

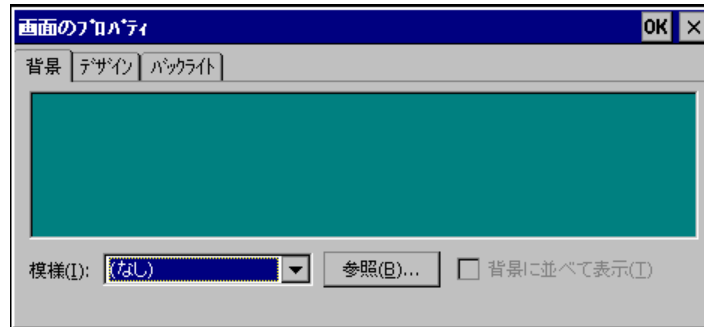


をダブルクリックすると画面のプロパティダイアログを表示します。

ここでは画面に関する設定を行うことができます。

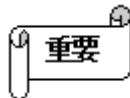
● 背景

ここでは、デスクトップ画面に表示する背景画を設定します。



「模様」は Storage Card 上のビットマップを設定しないでください。

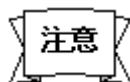
背景画は、参照ボタンをクリックして設定するファイルを選択すれば、使用することができますが本装置には内蔵 ROM を所有していないため、電源を一度落とすと背景画の設定は消えてしまいます。その際は再度設定し直しご使用ください。



背景画に設定するデータのサイズは本装置の表示画面よりも小さくしてください。これより大きいサイズの場合、背景画を設定することはできません。

● デザイン

「配色」を設定することで WindowsCE 上のウィンドウやダイアログの色を変更することができます。

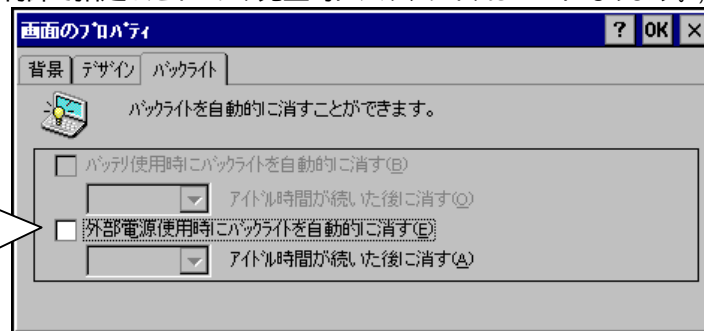


ソフトウェアキーボードの呼び出しアイコンの配色の変更はできません。

- バックライト

バックライトではバックライトを自動消灯する時間を指定することができます。
(バックライト制御で指定したイベント発生時にバックライトは ON になります。)

自動消灯設定の場合はチェックを入れ、待ち時間(アイドル時間)を選択します。



5-13 地域



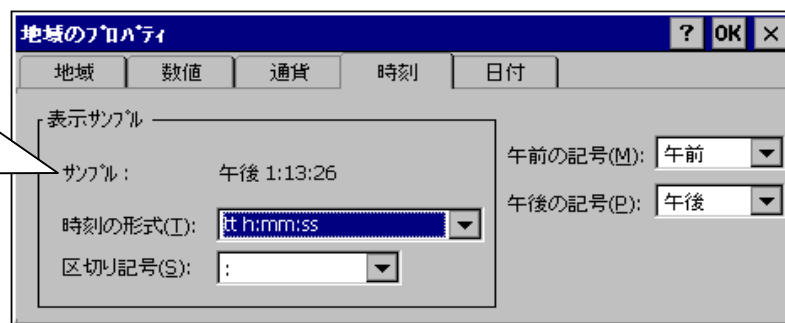
地域 をダブルクリックすると地域のプロパティダイアログを表示します。
WindowsCE 上での地域、数値、通貨、時刻、日付の設定を行います。



コントロールパネルの「地域」を「日本語(日本)」以外に変更しないでください。

● 日付・時刻

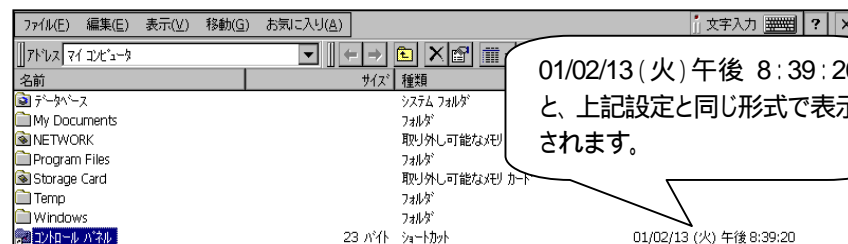
時刻の表示
サンプルを午後
1:13:26と
します。



日付の表示
サンプルを
01/02/13(火)
とします



➤ 設定後、エクスプローラでファイルを表示した際の表示



01/02/13 (火) 午後 8:39:20
と、上記設定と同じ形式で表示
されます。

5-14 通信



通信をダブルクリックすると通信のプロパティダイアログを表示します。

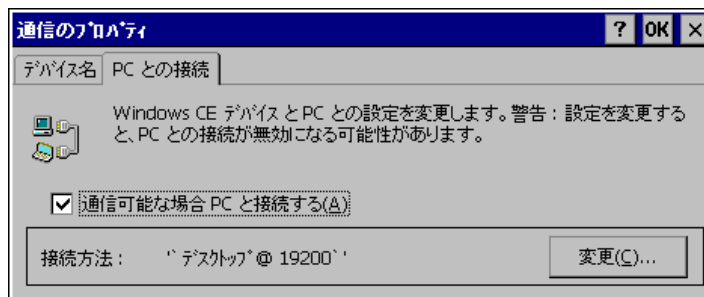
- デバイス名

ここでは RDP 接続時のデバイス名(端末名)を指定します。



- PC との接続

ここでは、ホストコンピューターとの接続方法、通信速度を変更できます。



通信速度を変更した場合は、コンピュータ側も同一速度にしてください。

5-15 日付/時刻



日付/時刻

をダブルクリックすると日付/時刻プロパティダイアログを表示します。

WindowsCE 上での現在の日付/時刻の設定を行います。

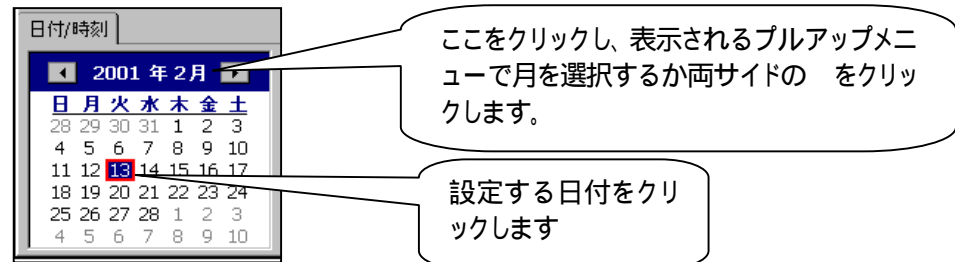
- 年を設定する



年を選択し反転表示し、設定したい年数を入力します

年を変更したい場合は、カレンダーの年の部分をクリックし、その部分を反転表示させます。10 進値で設定したい年を入力します。

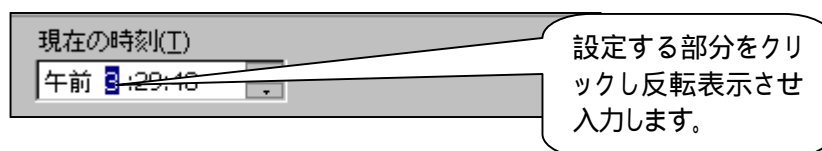
- 日付の設定をする



日付を変更する場合は、設定する日付の数字をクリックします。月を変更する場合は、月を直接クリックしてプルアップメニューを表示させるか横の矢印ボタンをクリックしてください。

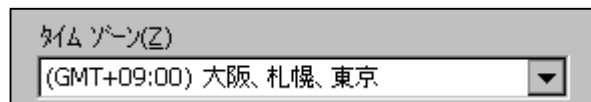
- 時刻の設定をする

時刻を変更する場合は、ダイアログ上の「現在の時刻」の入力フィールドをクリックし、設定する時刻を反転表示させます。10進値で入力を行ってください。なお、入力フィールド横の上下矢印ボタンをクリックすることでも時刻を変更することが可能です。



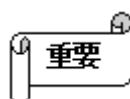
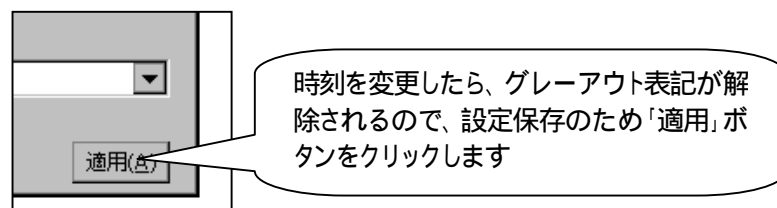
- タイムゾーン

表示する時刻をタイムゾーンにあわせて表示します。基本的にはデフォルト状態でご使用ください。



- 適用

時刻の変更を行った場合、設定を反映するために適用ボタンをクリックしてください。



時刻設定を行った場合は、必ず「適用」ボタンをクリックしてください。これをクリックせずに「OK」をクリックしてダイアログを閉じても設定は保存されません。

5-16 設定の保存

コントロールパネルの各種設定が終了したら、設定を保存する必要があります。設定変更したら必ず以下の保存作業をしてください。

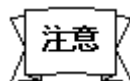
1. 設定を終了したら開かれているすべてのダイアログ右上の「OK」ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。



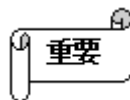
2. ウィンドウ右上の「×」ボタンをクリックし、コントロールパネルを閉じます。



3. 「設定を保存しますか」というメッセージが現れます。そこで、「はい」ボタンをクリックします。



「設定を保存しました」というメッセージが現れるまで、電源を切らないでください。途中で切った場合正常に動作しなくなる場合があります。



変更した項目によっては本装置の電源を再起動する必要があります。

4. 「設定を保存しました」というメッセージが現れます。そこで、「OK」ボタンをクリックします。ダイアログが閉じたら設定は終了です。

6 便利な機能

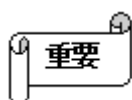
シンクライアント端末として、本装置特有の機能および操作方法を説明します。

6-1 設定変更ガード機能

本装置では、エンドユーザに ICA/RDP 接続エントリを安易に変更させない方法として、以下の2つの方法を用意しています。

1. パスワードによるガード

「コントロールパネル」-「パスワード」を設定することで、ICA/RDP 接続エントリの変更をパスワードでガードすることができます。



パスワードに関する注意事項は、「5-9 パスワード」をご覧ください。

2. ターミナル接続マネージャダイアログの非表示

この機能を使用すると、ターミナル接続マネージャを表示することなく ICA/RDP 接続を起動させることができます。

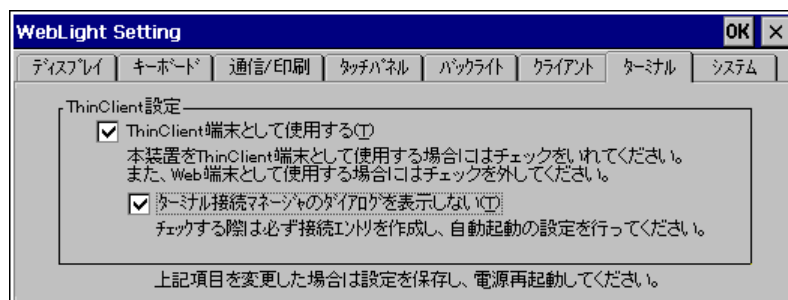
本装置使用者にシンクライアント端末を意識させたくない場合にご利用ください。

◆ ターミナル接続マネージャを非表示にする

1. ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「コントロールパネル」ボタンをクリックし、「WebLight」アイコンをダブルクリックします。



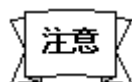
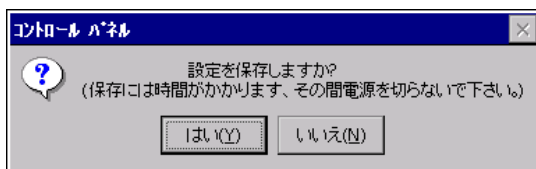
2. 「ターミナル」タブの「ターミナル接続マネージャのダイアログを表示しない」にチェックし、OK ボタンをクリックします。



3. 以上、設定が終わりましたら設定を保存します。コントロールパネルウィンドウ右上の「×」ボタンをクリックし、コントロールパネルを閉じます。

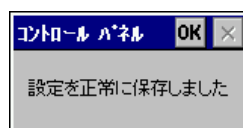


4. 「設定を保存しますか」というメッセージが現れます。そこで、「はい」ボタンをクリックします。




「設定を保存しました」というメッセージが現れるまで、電源を切らないでください。途中で切った場合正常に動作しなくなる場合があります。

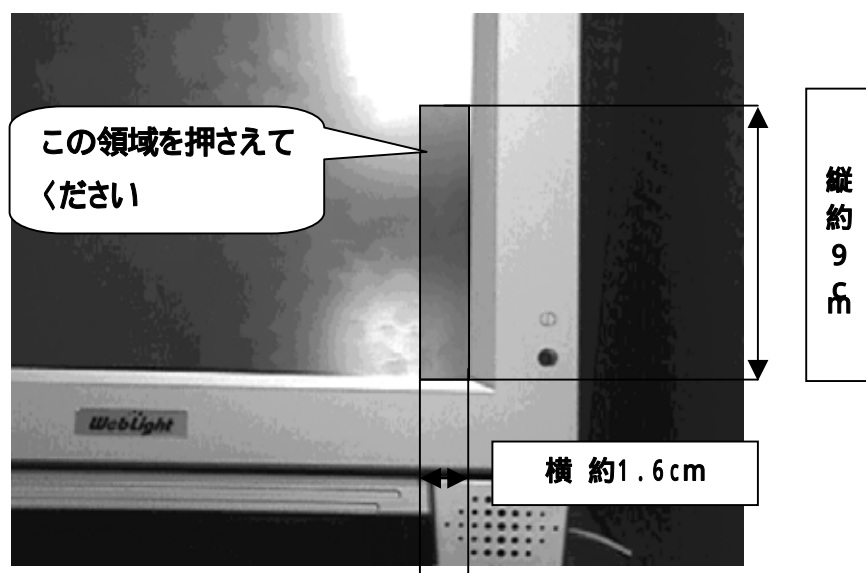
5. 「設定を保存しました」というメッセージが現れます。そこで、「OK」ボタンをクリックします。ダイアログが閉じたら設定は終了です。



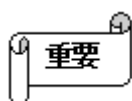
6. ダイアログが閉じたら、1 度本装置の電源を切り再度電源を入れなおしてください。次回起動時より、ターミナル接続マネージャが表示されなくなります。ターミナル接続マネージャを表示したい場合は、以下の操作を行ってください。

◆ ターミナル接続マネージャを表示する

1. 電源ランプ左横パネル部分(ハッチング領域)  を押さえたまま、電源を ON にします。



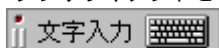
2. ターミナル接続マネージャが表示されます。
次回起動時以降もターミナル接続マネージャを表示したい場合は、「コントロールパネル」-「WebLight」の「ターミナル」タブの「ターミナル接続マネージャのダイアログを表示しない」のチェックを外し、設定を保存してください。



ターミナル接続マネージャを表示しない場合には必ず ICA/RDP 接続エントリを自動起動に設定してください。
詳しくは「3-4 RDP 接続エントリを自動起動に設定する」及び「4-5 ICA 接続エントリを自動起動に設定する」を参照して下さい。

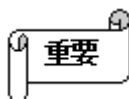
6-2 ソフトウェアキーボード

シンクライアントモードでは2種類のソフトウェアキーボードを標準搭載しています。



文字入力

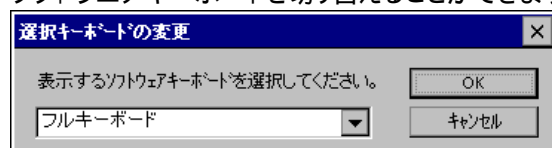
アイコンのキーボード部分をクリックしてください。



重要

デフォルトで表示するソフトウェアキーボードを変更する場合には、「5-2 WebLight 設定」の「キーボード」を設定してください。

また、ソフトウェア呼び出しアイコン部分でマウスの右クリックを行うと、途中でソフトウェアキーボードを切り替えることができます。

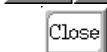


1. フルキーボード

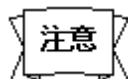
106 日本語対応のソフトウェアキーボードです。



キーをクリックするとソフトウェアキーボード自身が上下に移動します。



キーをクリックするとソフトウェアキーボードが終了します。



注意

外付けキーボードと同時に操作しないでください。

同時操作すると NumLock や CapsLock が表示と違う動作をする場合があります。

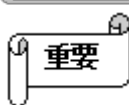
2. テンキー



キーをクリックするとテンキー自身が左右に移動します。



キーをクリックするとテンキーが終了します。



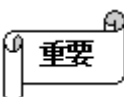
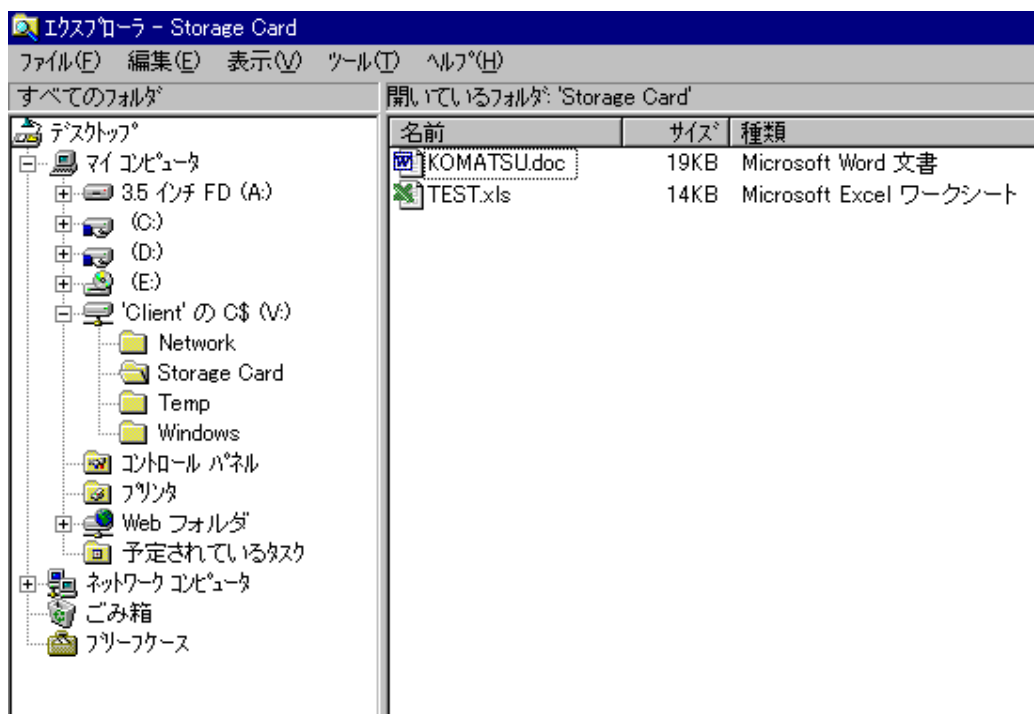
重要

「5-2 WebLight 設定」の「キーボード」でテンキーの大きさを変更することができます。

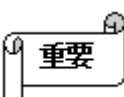
6-3 クライアントドライブの Storage Card 使用

本装置は PCMCIA インターフェースを所有しています。

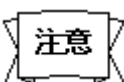
クライアントドライブを表示させる設定にして ICA クライアント接続した場合に、本装置の PCMCIA インターフェースに Storage Card を挿入し、データの入出力を行うことができます。



クライアントドライブの表示設定は、「5-2 WebLight 設定」の「クライアント」をご覧ください。

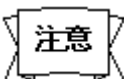


本装置のローカルドライブは「Client」の C\$ として表示されます。
また、ドライブの割り当ては Citrix サーバー側で行います。



「Storage Card」以外の「Network」、「Temp」、「Windows」フォルダも一緒に表示されます。

「Network」、「Temp」、「Windows」フォルダに対してデータの読み書きは行わないでください。



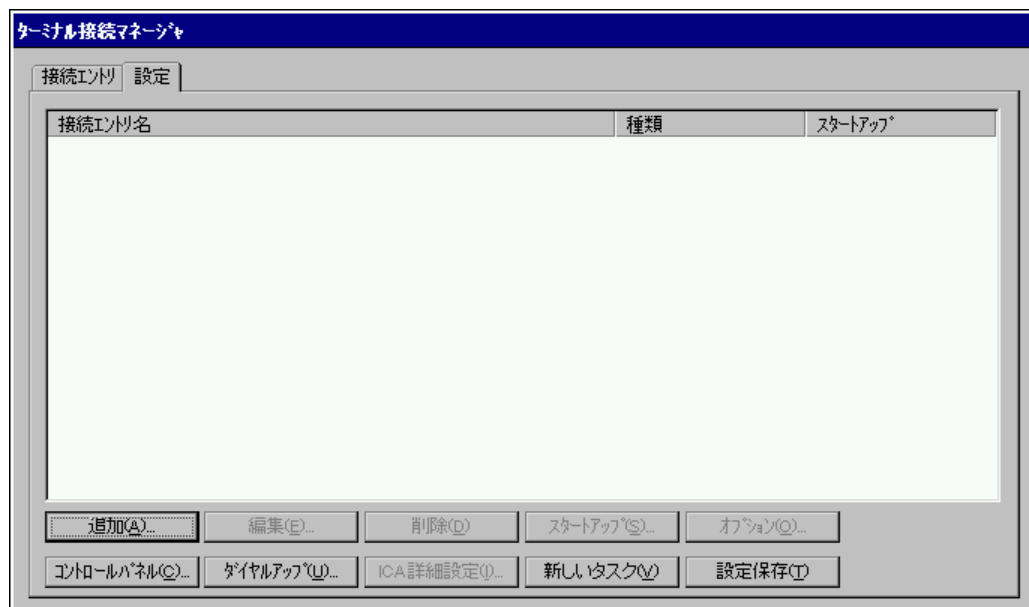
本装置出荷時の設定は「クライアントドライブを表示しない」設定になっています。

6-4 タスクの実行

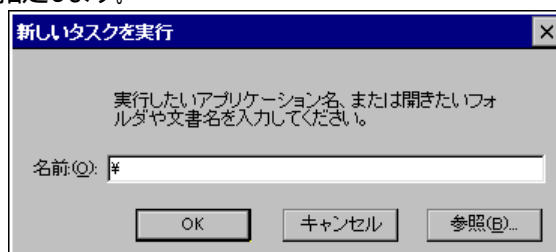
新しいタスクを実行することで、本装置に搭載されているアプリケーションを起動することができます。

● 新しいタスクを実行

ターミナル接続マネージャの「新しいタスク」ボタンをクリックします。



表示された「新しいタスクを実行」ダイアログで、実行するアプリケーションまたは開きたいフォルダやファイルを指定します。



「新しいタスクを実行」ダイアログで、「名前」にフォルダ名を入力してOK ボタンをクリックするとエクスプローラが起動します。
エクスプローラでは、フォルダの作成、ファイルのコピーなど、ファイルに関する操作を行うことが可能です。

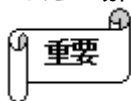
● コマンドプロンプトの起動

WindowsCE のコマンドプロンプトを起動する場合は以下の手順で操作して下さい。

1. ターミナル接続マネージャを起動し、「新しいタスク」ボタンをクリックします。
2. 「新しいタスクの実行」ダイアログが表示されたら、「参照」ボタンをクリックして「cmd.exe」を選択します。
3. 「OK」ボタンをクリックするとコマンドプロンプトが起動します。

6-5 ネットワーク確認コマンド

本装置ではネットワークとの接続確認のためのソフトを搭載しています。
本装置がサーバーとうまく接続できない場合、DHCP サーバーから取得した IP アドレスを表示させたい場合、無線 LAN ドライバの動作確認をする場合などにご使用いただけます。



これらのコマンドはコマンドプロンプト上から起動します。
コマンドプロンプトの起動に関しては「6-4 **タスクの実行**」をご覧ください。

● Ping.exe

本装置から指定した IP アドレスにデータを送り、その応答を見ることでネットワークが正常に動作しているかを確認できます。

1. コマンドプロンプトから以下のように入力します。
 - `ping 192.168.1.1` (確認する IP アドレスが「192.168.1.1」の場合)
2. 入力した IP の応答により、以下のように表示されます。
 - `Reply from 192.168.1.1:Echo size=** time=*ms TTL=***` (応答があった場合)
 - `PING: transmit failed, error code *****` (応答がなかった場合)

● Ipconfig.exe

コマンドプロンプトから「ipconfig」と入力すると本装置の TCP/IP 設定を確認できます。
さらに、「ipconfig /all」と入力すると本装置のネットワーク設定に関する詳細な情報が表示されます。

7 トラブルシューティング

Q. カードモデムを使用してダイヤルアップ接続時に接続が確立されない。

- PCカードアダプタを搭載したパソコンでカードモデムの動作確認を行ってください。接続されない場合は、ご使用のカードモデムの販売会社にお問い合わせください。

Q. 無線LANが繋がらない。

- PCカードアダプタを搭載したパソコンで無線LANカードの動作確認を行ってください。接続されない場合は、ご使用の無線LANカードの販売会社にお問い合わせください。
- 電波状態を確認して下さい。電波状態が悪くDHCPからIPを取得する設定の場合、IPアドレスが取得できない場合があります。この場合は、IPアドレスを指定してご使用ください。この電波状態の確認方法につきましては、「2-2-1 **Komatsu Wireless LAN Card KC-11B20Z1 の設定**」及び「2-2-2 **ORiNOCO Wireless Ethernet Driver の設定**」の「無線受信状態の確認」を参照ください。
- 特定のアクセスポイントに接続する場合、そのアクセスポイント名(ESS ID又は、プロファイル名)が正しく入力されていることを確認してください。
- コントロールパネルの「WebLight Setting」の「通信 / 印刷」の「LAN接続」設定が「本体のLANを無効にする」であることを確認してください。
- コントロールパネルの「ネットワーク構成」の「アダプタ」で選択されているアダプタがご使用の無線LANカード用のアダプタであるか確認してください。

Q. 画面が暗い。

- バックライトが切れていないかご確認ください。
- 「コントロールパネル」の「WebLight」-「ディスプレイ」で「バックライト/コントラスト」が「暗」に近い設定になっていないか確認してください。その場合は、「明」の方向にスライダーをずらししてください。

Q. 音声が出力されない。

- スピーカーのジャックが正しく接続されているか、ご確認ください。
- コントロールパネルの「ボリューム & ブザー」でボリュームが最低になっていないか確認してください。

Q. タッチパネルの位置が合わない。

- 「6-6 **スタイラス**」でタッチスクリーンの補正を行ってください。

Q. タッチパネルが正常に動作しない。

タッチパネルが正常に動作していない場合は、以下の事項を確認してください。

- タッチパネルにゴミなどが付着していないか。
- ベゼルが変形してタッチパネルに接触していないか
- タッチパネルにキズやヒビがないか

以上の項目を確認して異常がなければ、当社までご連絡下さい。

Q. 接続エントリの作成で英数字しか入力できない。

- 本装置をシンクライアント端末として使用している状態ではIMEは起動しません。よって、接続工

ントリの作成などで日本語入力することはできません。

Q. サーバーに接続中 ショートカットキーが使用できない!

- サーバーにログインしている間に[Ctrl + Alt + Delete]や[Alt + Tab]などのショートカットキーを入力しても WindowsCE 側のシェルがキーコードを受け取ってしまうため、サーバー側でショートカットキーを使用することはできません。
- ICA クライアントによる接続時はショートカットキーとしてキーを登録することで、アプリケーションの切り替えや、セキュリティダイアログの表示などを行なうことが可能です。詳しくは「4-9 ICA 詳細設定」を参照してください。

Q. タスクバーが表示されない!

- 本装置をシンクライアント端末モードで使用する場合、タスクバーは表示されません。

2002 年 12 月 26 日 初版 発行
2003 年 03 月 10 日 二版 発行
2004 年 02 月 10 日 三版 発行
2004 年 06 月 01 日 四版 発行

KOMATSU

コマツ 建機エレクトロニクス事業部 情報通信事業グループ

〒254-8555 神奈川県平塚市四之宮3-25-1

営業部

TEL : 0463-22-8420 FAX : 0463-22-8421

サポートセンタ

Mail weblight_cs@komatsu.co.jp